

## 響き合って踊る生徒を育てるダンスの学習指導

—『交流』する活動を生かした学習展開の工夫を通して—

みやま市立高田中学校

金ヶ江 正大

### I 主題設定の理由

#### 1 ダンスの特性及び学習指導要領の改訂から

ダンスは、自分のイメージや思いを全身で表現するダイナミックでリズムカルな運動であり、いろいろな人と踊って共感・交流し合うところに楽しさがある。

片岡(1992)は、「ダンスの授業は、子どもたちの心と身体を開き、ひとりひとりの違いを認めることによって、自分を理解し自分に自信を抱くことができるような場になり得る。とりわけ伝達型の教育ではなく創造型・自己探求型の学習ができる領域である。」と述べているとおり、ダンスの学習が、教師対生徒全員の一方通行だけでなく、生徒同士がかかわり合って、コミュニケーションする授業形態を多く取り入れられる領域であることを示唆している。つまり、イメージをとらえ、感じを込めて表現することや仲間とかかわりながら踊ることは、自他とのコミュニケーションをより重視する領域である。

今回の学習指導要領の改訂では、小学校から高等学校への系統性が示されるとともに、中学校1・2年のいずれかの学年で全生徒がすべての領域を履修することになり、「ダンス」もすべての指導者が指導する領域になった。また、指導の内容については、特に「技能」において題材、動きの例示が従前より具体的に示された。

創作ダンスにおいて、中学校1・2年では、感じを込めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現を通じた交流ができるようにすることが学習の内容となっている。

このようにダンスの特性や学習指導要領の趣旨を踏まえ、仲間とかかわりながら、コミュニケーションを重視し、イメージした思いや動きを表現することで、お互いに感じを込めて踊り、みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、イメージした思いや動きをさらに広げ、深めるとともに仲間とのよりよい人間関係を築くことにつながると考える。以上のことから、ダンスの学習において、言語活動を充実させることは、意義深いと考え、本主題を設定した。

#### 2 中学生期の生徒の実態から

中学生期は、思春期に入り自我が目覚め始め、自分と他人が違うことに対して不安を感じるようになる時期である。このため、自己を表現することへの抵抗や恥ずかしさが見られることもある。また、過去2年間の、本所の長期派遣研修の研究から、中学生期は、仲間の状況や立場を考えながら自らの行動を選択し、決定できる発達段階にあり、仲間と一緒に運動を計画し、実践することが体力を高め、よりよい人間関係を築く上で有効であることが分かった。また、村田(1998)は、「中学校でのダンス授業では、生徒の心の持ち方が授業を大きく左右し、生徒がその気になった時(自発的になっている時)とさせられている時(受動的な時)とでは、その差が極端に出てくるのが中学生の特徴である。」と述べている。つまり、中学生期において、仲間と励まし合ったり、話し合ったりしながら、互いに認め合って学習することで、お互いの運動意欲が高まり、運動する楽しさがさらに深まるとともに『交流』する活動を充実させ、自由にかかわり合って踊る中で、場を共有する仲間と感じ合い、新しい自分や友達の個性を発見でき、踊る楽しさも倍増できると考える。

以上のことから、ダンスの学習において、『交流』する活動を生かした学習展開を工夫することは、仲間とともにイメージや動きを言葉や身体で表現したり、表現の仕方や練習の仕方、発表の仕方などを工夫したりしながら、積極的に学習に取り組みせることができると考え、本主題を設定した。

## II 主題・副主題の意味

### 1 「響き合って踊る生徒」とは

多様なテーマから表したいイメージをとらえ、それを動きにかえて表現するとともに、お互いのイメージや動きを交流しながら、それを共有することで、豊かな表現ができる生徒のことである。

#### (1) 「多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きにかえて表現する」について

「多様なテーマから表したいイメージをとらえる」とは、日常的な動きや心象（意識の中に思い浮かべたもの）などの多様なテーマから、曲や歌詞、絵画、写真などを使って、連想を広げながら、表したいイメージをとらえることである。

「動きにかえて表現する」とは、とらえたイメージを思いつくままに動きにかえて踊ったり、仲間の動きをまねたりするなど即興的な動きで表現することである。その時、走る、止まる、とぶ、回る、転がるなどの動きの組み合わせを工夫することやデフォルメ（誇張したり、繰り返したりして強調し変形すること）したり、メリハリなどの動きの変化によって、イメージをより豊かに表現できると考える。

#### (2) 「お互いのイメージや動きを交流しながら、それを共有すること」について

「お互いのイメージや動きを交流する」とは、舞踊学講義(1991)の中で、「踊る行為には、『コミュニケーション』（伝達、共有、共感）の意味が含まれている。そして、ダンスのコミュニケーションの意味には、完成された作品の伝達・鑑賞だけでなく、踊る者同士の動きによるかかわりも含まれる。」と述べられている。これは、授業の中で、1人で十分に踊れるようになってからダンスのコミュニケーションを楽しむのではなく、常に仲間とかかわりながら踊る行為を楽しませるとともに、いろいろな仲間と一緒に踊ることで、新たな動きや思いがけない発見があり、踊る楽しさも大きくなることを意味している。

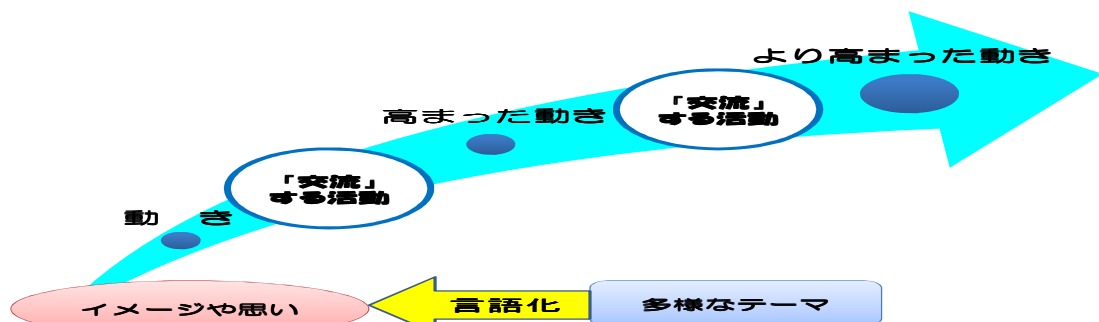
つまり、ダンスの学習が個人の活動だけでなく、小集団活動を取り入れることで、言語活動の充実とともに身体表現を通して、仲間の動きを共感したり、まねたりするなどイメージや動きを共有するところにコミュニケーション能力が育成され、より動きが高まっていくと考える。

「イメージや動きを共有する」とは、動きをまねたり、シンメトリー（対称）やアシンメトリー（非対称）、カノンなどの動きの組み合わせを工夫しながら、仲間の動きに共感したり、反応したりすることである。さらにイメージや動きを共有することで、仲間と感じ合い、かかわり合って踊る中で、他者を鏡にして新しい自己や仲間の個性を発見する機会となる。

つまり、仲間と関わることでお互いの違いを実感することが、さらに新たなコミュニケーションを生み、踊る楽しさを倍増させ、ダンスを受け身ではなく、自発的に楽しむ力につなげていくと考える。

以上のことから、本研究では、イメージと動きの高まりについて【資料1】の図のようにとらえる。

まず、多様なテーマから、自分のイメージや思いを「言語化」させ、そのイメージや思いを自由に動きにかえて表現させる。それをもとに、仲間と伝達や交換を行う「**交流**」する活動を設定し、動きの工夫や動きの変化をさせることで動きは高まると考える。その高まった動きをもとにさらに「**交流**」する活動を設定し、グループで簡単な作品創作活動を取り組ませることで、動きはより高まると考える。なお、「**交流**」する活動においては、共通主題において述べた様に、教師から話し合いの視点やポイントとなる情報の提示を明確に行うことで、生徒たちは「**交流**」する活動を通して、イメージはより深まり、自分が表したい感じや思いを込めた豊かな表現ができると考える。



【資料1：イメージと動きの高まりの関連図】



(3) 「響き合って踊る生徒を育てるダンスの学習指導」について

お互いのイメージや動きを交流させ、それを共有させながら学習を進めることで、踊る「技能」はもとより、積極的にダンスに取り組む「態度」やダンスに関する知識について理解する「知識」、動きの組み合わせや変化のある動きを工夫できるようになる「思考力・判断力」など、動きを高め合うための資質や能力を身につけさせることである。

そこで、本研究が目指す生徒の姿を以下のように示す。

資質や能力	目指す生徒の姿
技能	テーマからイメージをとらえ、緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして、変化をつけたひとまとまりの動きで踊ることができる。
態度	仲間と協力して分担した役割を果たそうとすることや仲間の良さを認め合ったり、見合ったりするなど、お互いの安全に気を配りながら、積極的にダンスに取り組むことができる。
知識 思考力・判断力	ダンスに関する知識について理解し、『交流』する活動を通して、仲間とともに動きの組み合わせや変化のある動きを工夫できる。

## 2 「『交流』する活動を生かした学習展開の工夫」とは

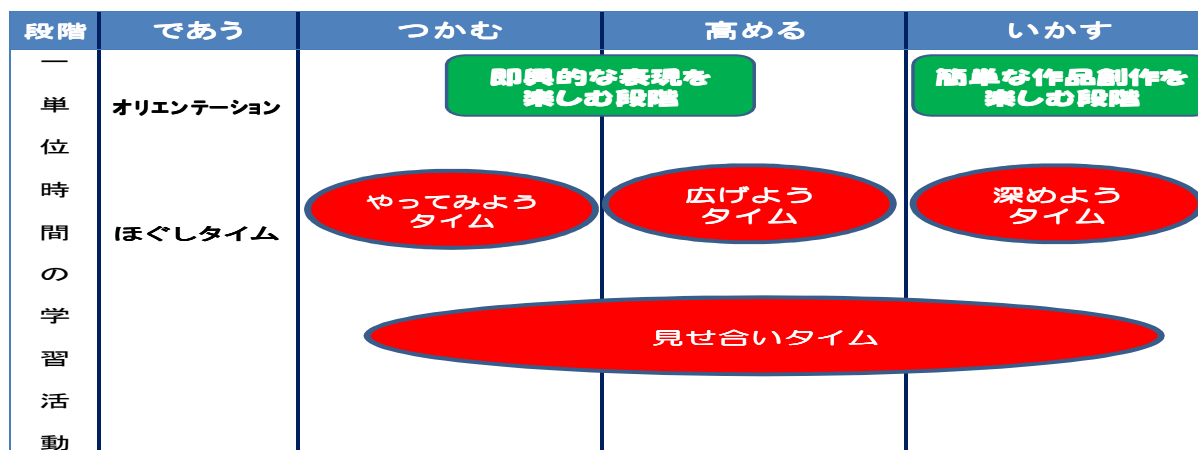
学習の展開において、「即興的な表現を楽しむ段階」と「簡単な作品創作を楽しむ段階」の2つの段階を位置づけるとともに、「やってみようタイム」「広げようタイム」「深めようタイム」「見せ合いタイム」の活動を設定することと、ペアやグループによる『交流』する活動を多く仕組むことである。

(1) 「即興的な表現を楽しむ段階」と「簡単な作品創作を楽しむ段階」について

生徒の中には、「恥ずかしい」や「うまく踊れない」、「踊り方やリズムの取り方がわからない」などを理由に、ダンスに対するマイナスのイメージを持っている者もいる。生徒たちのマイナスイメージを取りのぞき、ダンスの学習を楽しくさせるために、仲間とともに体を動かす中で、「自由に表現を楽しむ活動」と、その動きをもとに仲間と「動きを発展させ、創作する活動」を設定する。そこで、以下の図【資料2】のように「である」「つかむ」「高める」「いかす」段階では、「即興的な表現を楽しむ段階」を設定し、「いかす」段階では、「簡単な作品創作を楽しむ段階」を設定した2段階で学習展開を行っていく。なお、本研究では、「である」「つかむ」「高める」「いかす」の4段階で構成する。事前調査で、生徒が創作ダンスの経験がほとんどなく、創作ダンスの基本的技能が身につけていないことと、ダンスの学習に対して不安を持っていることが分かった。そこで、「つかむ」段階を設定することで、基本的技能を身につけさせ、ダンスの楽しさを感じさせることができると考えた。

「即興的な表現を楽しむ段階」では、テーマや題材からイメージを持たせ、それを自由に動きに変えて表現し、身に付けた動きを仲間と工夫して高めていく段階であり、「やってみようタイム」「広げようタイム」「見せ合いタイム」の活動を設定する。

「簡単な作品創作を楽しむ段階」では、「即興的な表現を楽しむ段階」において、身に付けた動きを基に、グループごとに「はじめーなかーおわり」のひとまとまりの簡単な作品を創作させ、「深めようタイム」「見せ合いタイム」の活動を設定する。



【資料2:『交流』する活動を生かした学習展開の工夫】

## (2) 『交流』する活動について

高橋（2010）は『よい体育授業』の条件によると、子どもが評価する体育授業では、学習集団において協力的で肯定的な人間関係（子ども同士の助言、励まし、補助、協同的作業など）が見られる。」としている。つまり、肯定的な人間関係をつくることが「よい体育授業」を成立させる一つの要因と言える。そこで、本研究では、言語活動として「**交流**」する活動を「伝え合い」「話し合い」「教え合い」「評価し合い」の活動として設定する。その際、活動のポイントを明確にして「**交流**」する活動を充実させることで、表現や踊る技能をより高めるとともに仲間のアイデアや動きを共感したり、まねたりするなど、仲間の良さを認め合ったりする態度や動きの組み合わせや変化のある動きを工夫することも高まると考えられる。

## (3) 「ペアやグループによる『交流』する活動を多く仕組む」について

保健体育の授業において、異性のことを気にし始める中学生期に、グループ構成は特に配慮を要するところである。領域によっては、発達段階や運動技能を考慮して、男子と女子を分けて学習を進めることも考えられるが、ダンスの学習は、運動技能の男女差がなく、みんなが取り組むことができる領域である。しかも、男子ならではの力強い動きや女子ならではの柔らかい動きなどを考えると、ダンスだからこそ男女共習での学習において、性差を越えた運動学習やお互いの特性を認め合うことができる。そこで、仲間とかかわり合いながら、「**交流**」する活動を促すために、以下のようにペアやグループを構成したり、「**交流**」する活動を設定したりする。

**ペア**は、仲間の個性に触れさせるために、グループ内で流動的につくる。そして、「**やってみようタイム**」「**広げようタイム**」「**見せ合いタイム**」の活動において、イメージや動きを共有し、動きを工夫するように活動させる。

**グループ**は、生徒たちの安心感を与えるとともに、照れや恥ずかしさで活動しないことがないように人間関係に考慮して、あらかじめ教師側で構成する。そして、「**広げようタイム**」「**深めようタイム**」「**見せ合いタイム**」の活動において、グループによる創作活動をさせる。

## Ⅲ 研究の目標

ダンスにおける『交流』する活動を生かした学習展開の工夫を通して、響き合って踊る生徒を育てる学習指導の在り方を究明する。

## Ⅳ 研究の仮説

ダンスの学習において、以下のような工夫を行えば、生徒たちは、動きを高め合うために必要となる資質や能力を身につけたり、高めたりして、響き合って踊る生徒が育つであろう。

### 1 学習展開の工夫

「即興的な表現を楽しむ段階」では、「**やってみようタイム**」「**広げようタイム**」「**見せ合いタイム**」で、即興的に表現した動きを仲間と工夫する活動を行い、「簡単な作品創作を楽しむ段階」では、「**深めようタイム**」「**見せ合いタイム**」で、仲間と変化のあるひとまとまりの簡単な作品を創作する活動で構成する。

### 2 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

『交流』する活動を促すために、**ペアやグループでの活動**を仕組み、「**交流**」する活動を通して、動きの組み合わせや変化のある動きに工夫、発展させる。

## V 研究の具体的構想

### 1 学習展開の工夫

「即興的な表現を楽しむ段階」と「簡単な作品創作を楽しむ段階」の2つの段階において、以下の活動を設定し、「**交流**」する活動を促す。

活動	目的	内容	方法
ほぐしタイム	心と体をほぐし、ダンスの学習に自然と入って活動できるようにするとともに、仲間と楽しく活動する雰囲気をつくる。	○活動することで主運動の動きのイメージを持つとともに、仲間とかかわりながら取り組ませる。	○イメージした動きを即興的に表現させる。 ○ <b>ペア活動</b> を中心に仲間と楽しく活動させる。
やってみようタイム	題材やテーマから、課題に応じた即興的な表現ができるようにさせる。	○『体育祭ダイジェスト』…体育祭の経験から動きをイメージできる題材で、より誇張した動きにするために、スローモーションや繰り返しの動きを取り入れて表現させる。 ○『対極の動き』…多様な動きを引き出すために、緩急や強弱をつけたり、高低を使ったりして、表現させる。	○イメージした動きを即興的に表現し、 <b>ペアやグループ</b> による「 <b>交流</b> 」する活動を通して、イメージや動きを共有しながら、仲間とともに動きを工夫させる。
広げようタイム	「やってみようタイム」で見つけた動きを基に、変化のあるひと流れの動きで表現できるようにさせる。	○『スポーツ4コマ創作』…動きのイメージが持てるように、身近なスポーツからテーマを決め、ストーリーを4コマで創作して表現させる。	○動きカードにテーマから思いつくイメージや動きをたくさん書かせる。 ○「 <b>交流</b> 」する活動を通して、ストーリーや動きを決めさせる。 ○ <b>ペア創作</b> で経験したことを生かして、 <b>グループ創作</b> では、時間・力・空間の要素から動きをより工夫させる。
深めようタイム	「広げようタイム」で経験した創作活動を生かして、変化をつけたひとまとまりの作品を創作し、表現できるようにさせる。	○『合唱曲をダンスに創作』…合唱祭で歌う「Song is my soul」からイメージや思いを出し合い、それを動きに変えて、「はじめーなかーおわり」のひとまとまりの簡単な作品を創作して表現させる。	○動きカードにテーマから思いつく表したいイメージや動きを書かせる。 ○「 <b>交流</b> 」する活動を通して、イメージや動きをつなぎ、ストーリーを決めさせる。 ○「 <b>交流</b> 」する活動を通して、考えた動きを時間・力・空間の要素から動きを工夫したり、アシンメトリーやカノンなどの群が変化したりする動きで表現させる。
見せ合いタイム	安心して「表現」できる雰囲気の中で伸び伸びと発表させるとともに見る側のマナーを身につけさせる。	○本時の活動で練習した動きを発表させる。 ○仲間の動きの好きな所や良かった所などを評価させ、アドバイスさせる。	○学習ノートを使って、仲間の動きの好きな所や良かった所を評価させる。 ○付箋紙を使って、気づいたことや動きの改善点を記入させる。

「ほぐしタイム」では、生徒が興味を持って取り組める題材で仲間とかかわりながら心と体をほぐす活動を行う。

「やってみようタイム」では、題材やテーマから、課題に応じた動きを取り組ませる。動きのイメージや思いから「交流」する活動を設定し、イメージや思いを共有させる。そのイメージから動きに変えて、即興的に表現して楽しませる。

「広げようタイム」では、「やってみようタイム」の活動で見つけた動きをもとに、緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして踊るために、「交流」する活動を設定し、変化のあるひと流れの動きをつくる。

「深めようタイム」では、合唱祭で自分たちが歌う「Song is my soul」の歌詞や曲から、イメージや思いを出し合い、それを動きに変えて、グループごとに「はじめ～なか～おわり」のひとまとまりの簡単な作品を創作させる。この中にも「交流」する活動を設定し、時間・力・空間の要素から変化のある動きを工夫させ、作品を創作させる。また、本研究の対象は1年生ということで、今回初めて、中学校の合唱祭に取り組んでいる。合唱祭は、体育祭やクラスマッチなどの体育行事と同様、学級が一致団結し、協力しないと成功しない学校行事である。また、2・3年生と違い、合唱祭への想いも浅く、歌詞には、伝えたいメッセージがあるが、感情を込めて唄う表現力も乏しいと考える。そこで、合唱曲を使った簡単な作品創作を行うことで、表したいイメージにふさわしい動きを考え、表現できるようになるとともに、感情を込めたより豊かな表現力が身につくと考え、本題材を設定した。

「見せ合いタイム」では、本時の活動で身につけた動きを発表させるとともに仲間の動きの好きな所や良かった所などを評価させる「交流」する活動を設定する。また、「見せ合いタイム」を設定することで、「見られる」ことにも慣れさせるとともに「見る」場を継続して取り入れていくことで、安心して「表現」できるとともに見る側のマナーが身に付くようにもなると考える。

以上の活動を踏まえ、動きを高め合うために、「交流」する活動を生かした学習を以下のように展開していく。

段階	であう	つかむ				高める			いかす	
	即興的な表現を楽しむ段階								簡単な作品創作を楽しむ段階	
配時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
各段階の目指す生徒像	ア 題材から表したいイメージを動きに変えて、即興的に表現することができる。 イ 仲間とかかわり合いながら、積極的に運動に取り組むことができる。 ウ ダンスのねらいについて理解し、単元の見通しを持つことができる。	ア イメージしたことを動きに変えたり、動きに変化をつけたりして即興的に表現することができる。 イ 励まし合ったり、賞賛し合ったりするなど仲間とかかわり合いながら積極的にダンスに取り組むことができる。 ウ 動きのねらいについて理解し、仲間とともに動きを工夫することができる。			ア 表したいイメージにふさわしい動きを考え、動きに緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして、即興的に表現することができる。 イ 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間とかかわり合いながら、互いに役割を果たし、積極的に取り組むことができる。 ウ 表したいイメージにふさわしい動きを動きカードに表し、グループに合った表現の仕方を工夫することができる。			ア 歌詞や曲の特徴をとらえて、表したいイメージにふさわしい動きを考え、変化をつけたひとまとまりの動きで表現することができる。 イ 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間の良さを認め合いながら、互いに役割を果たすことができる。 ウ 表したいイメージにふさわしい動きを表し、表現の仕方を工夫することができる。		
学	0	1 学習のめあてと内容の確認	1 ほぐしタイム だるまさんが転んだ、ペーパームーブメント ペアなわとび、ブザービート				1 学習のめあてと内容の確認			
習		2 オリエンテーション	2 学習のめあてと内容の確認				2 深めようタイム 第8・9時： 合唱曲をダンスに 創作			
活		3 ほぐしタイム 『決定的パンチ』	3 やってみようタイム 第2時：体育祭ダイジェスト 第3時：対極の動き① 第4時：対極の動き② 【「交流」する活動】				3 広げようタイム 第5時：ペア4コマ創作 第6・7時：グループ4コマ創作 【「交流」する活動】			
動		4 学習のまとめ	4 見せ合いタイム 本時の活動で練習したものを発表する。 【「交流」する活動】				4 見せ合いタイム 本時の活動で練習したものをグループ内で発表し、助言する。 【「交流」する活動】			
	50		5 学習のまとめ 本時を振り返って、気づいたことを学習プリントに記入する。				3 見せ合いタイム 本時の活動で練習したものをグループ内で発表し、助言する。 【「交流」する活動】 4 発表会（第9時）			

## 2 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

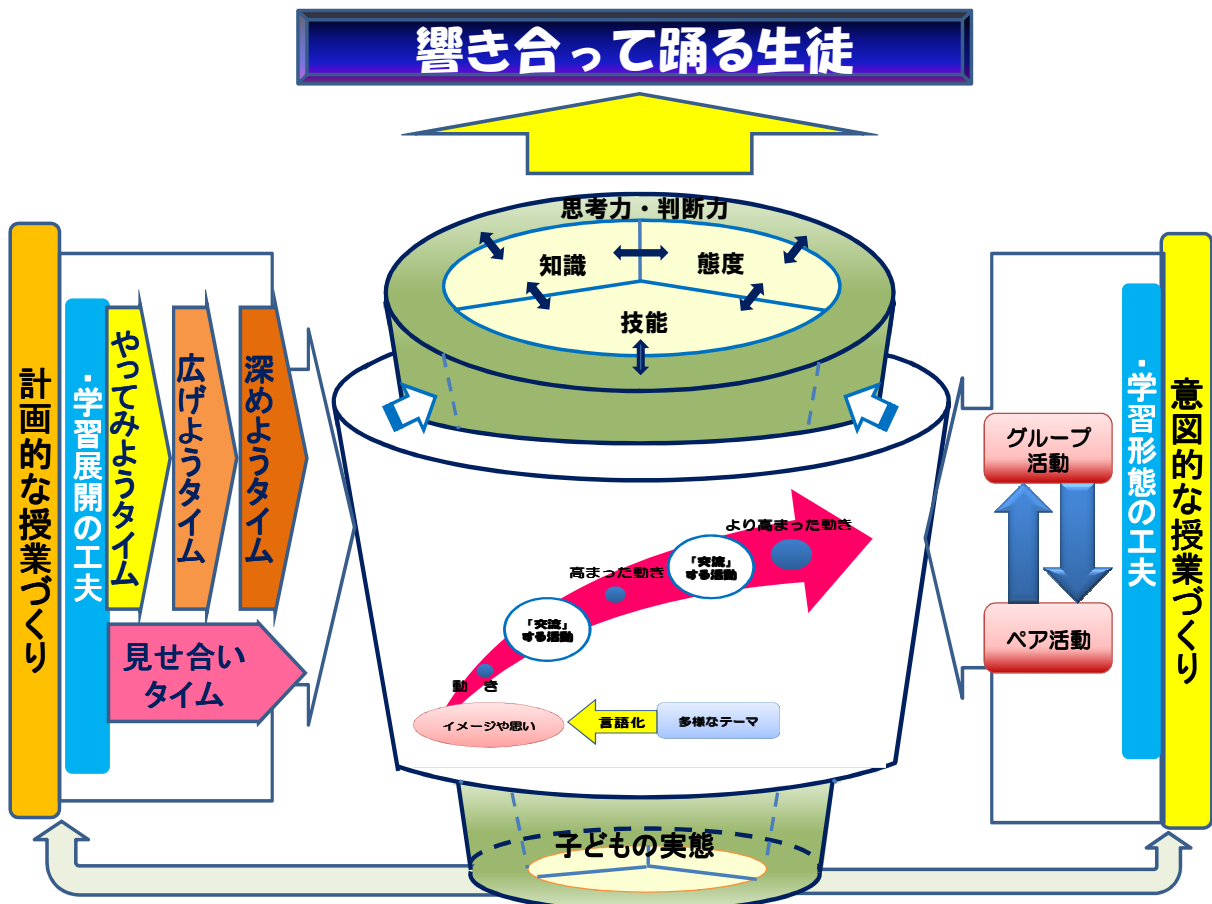
ペア活動は、「ほぐしタイム」「やってみようタイム」「広げようタイム」において行う。グループの中でペアを流動的に作り、誰とでも気軽に組んで、互いの個性に触れさせる。ここでの、「交流」する活動は、お互いに伝え合い、教え合う活動を通して、動きを高め合うために設定する。

グループ活動は、「広げようタイム」「深めようタイム」「見せ合いタイム」において行う。グループは、2つのペアを合わせて、4人程度で活動させる。ここでの「交流」する活動は、お互いに見せ合い、教え合う活動を通して、より動きを高め合うために設定する。

以上のことを踏まえ、学習形態の工夫を以下の表のようにまとめた。

形態	何のために	どんなこと	どのように	いつ
ペア	イメージや動きを仲間と共有しながら、多様な動きを身につけさせるとともに、「交流」する活動を通して仲間の個性に触れさせ、動きを高め合わせるため。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『ペーパームーブメント』</li> <li>○『ペアなわとび』</li> <li>○『ブザービート』</li> <li>○『体育祭ダイジェスト』</li> <li>○『対極の動き』</li> <li>○『スポーツ4コマ創作』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いの動きを<b>伝え合ったり、教え合ったり</b>しながら、即興的に表現させる。</li> <li>○「交流」する活動を通して、時間・力・空間の要素から動きを工夫させ、創作させる。</li> </ul>	広げようタイム やってみようタイム ほぐしタイム
グループ	イメージや動きを仲間と共有しながら、「交流」する活動を通して、ペア活動で身に付けた動きを基に、教え合いや見せ合うことで、より動きを高め合わせるため。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『スポーツ4コマ創作』</li> <li>○『合唱曲をダンスに創作』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレインストーミングなどの「交流」する活動を行い、たくさんのアイデアを出させ、ストーリーや動きを創作させる。</li> <li>○群での動きを時間・力・空間の要素から工夫させる。</li> <li>○「見せ合いタイム」では、<b>仲間の動きを評価させ、アドバイスさせる。</b></li> </ul>	見せ合いタイム 深めようタイム 広げようタイム

## 3 研究構想図





#### 4 仮説検証の方途

段階		生徒像	手だて	実証方法	評価の視点
事前調査				①新体カテストの結果 ②AMPET（学習意欲検査） ③仲間に関する調査 ④診断的授業評価 ⑤ダンスに関する実態調査	・新体カテストの総合判定 ・体育の学習に興味・関心があるか ・体育の学習で友人との関係を良好に感じているか ・これまでの学習で、ダンスに対する興味・関心を持っているか
であう段階	技能	ア 題材から表したいイメージを動きに変えて、即興的に表現することができる。	・ほぐしタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・題材のイメージから自分なりに動くことができているか。
	態度	イ 仲間とかかわり合いながら、積極的に運動に取り組むことができる。	・ほぐしタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析 ④自己評価	・仲間とかかわり合いながら、積極的に運動に取り組むことができているか。
	知・思・判	ウ ダンスのねらいについて理解し、単元の見通しを持つことができる。	・ほぐしタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・ダンスのねらいについて理解し、単元の見通しを持つことができているか。
つかむ段階	技能	ア イメージしたことを動きに変えたり、動きに変化をつけたりして即興的に表現することができる。	・ほぐしタイム ・やってみようタイム ・見せ合いタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・題材のイメージから自分なりに動くことができているか。 ・仲間や教師の動きをまねて、動くことができているか。
	態度	イ 励まし合ったり、賞賛し合ったりするなど仲間とかかわり合いながら積極的にダンスに取り組むことができる。	・ほぐしタイム ・やってみようタイム ・見せ合いタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析 ④自己評価	・励まし合ったり、賞賛し合ったりするなど、仲間とかかわり合うことができているか。 ・仲間とかかわり合いながら、積極的にダンスに取り組むことができているか。
	知・思・判	ウ 動きのねらいについて理解し、仲間とともに動きを工夫することができる。	・ほぐしタイム ・やってみようタイム ・見せ合いタイム ・ペア活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・動きのねらいについて理解することができるか。 ・いろいろな動きから、課題を見つけることができているか。
高める段階	技能	ア 表したいイメージにふさわしい動きを考え、動きに緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして、即興的に表現することができる。	・ほぐしタイム ・広げようタイム ・見せ合いタイム ・ペア、グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・「やってみようタイム」で身に付けた動きを組み合わせ、動きに緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして表現することができるか。
	態度	イ 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間とかかわり合いながら、互いに役割を果たし、積極的に取り組むことができる。	・ほぐしタイム ・広げようタイム ・見せ合いタイム ・ペア、グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析 ④自己評価	・話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間とかかわり合うことができているか。 ・仲間と分担した役割を果たして、積極的にダンスに取り組むことができているか。
	知・思・判	ウ 表したいイメージにふさわしい動きを動きカードに表し、グループに合った表現の仕方を工夫することができる。	・ほぐしタイム ・広げようタイム ・見せ合いタイム ・ペア、グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・表したいイメージにふさわしい動きを表し、表現の仕方を工夫することができるか。
いやす段階	技能	ア 歌詞や曲の特徴をとらえて、表したいイメージにふさわしい動きを考え、変化をつけたひとまとまりの動きで表現することができる。	・深めようタイム ・見せ合いタイム ・グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・動きを発展させ、「はじめ—なか—おわり」の変化のあるひとまとまりで表現することができるか。
	態度	イ 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間の良さを認め合いながら、互いに役割を果たすことができる。	・深めようタイム ・見せ合いタイム ・グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析 ④自己評価	・話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間の良さを認め合いながら活動することができるか。 ・仲間と互いの役割を果たして、積極的にダンスに取り組むことができているか。
	知・思・判	ウ 表したいイメージにふさわしい動きを表し、表現の仕方を工夫することができる。	・深めようタイム ・見せ合いタイム ・グループ活動	①様相観察 ②ビデオの分析 ③学習ノート記述の分析	・合唱曲のイメージから、ふさわしい動きを表し、表現の仕方を工夫することができるか。
事後調査				①AMPET（学習意欲検査） ②仲間に関する調査 ③総括的授業評価 ④事後の感想記述分析	・事前調査より体育学習に対する興味・関心が高まっているか ・事前調査より体育の学習で友人との関係を良好に感じているか ・仲間の良さを感じ、運動を日常化するなどの好ましい変容があったか。

## VI 研究の実際と考察

実証単元 平成22年9月27日(月)～10月26日(火)(全9時間)

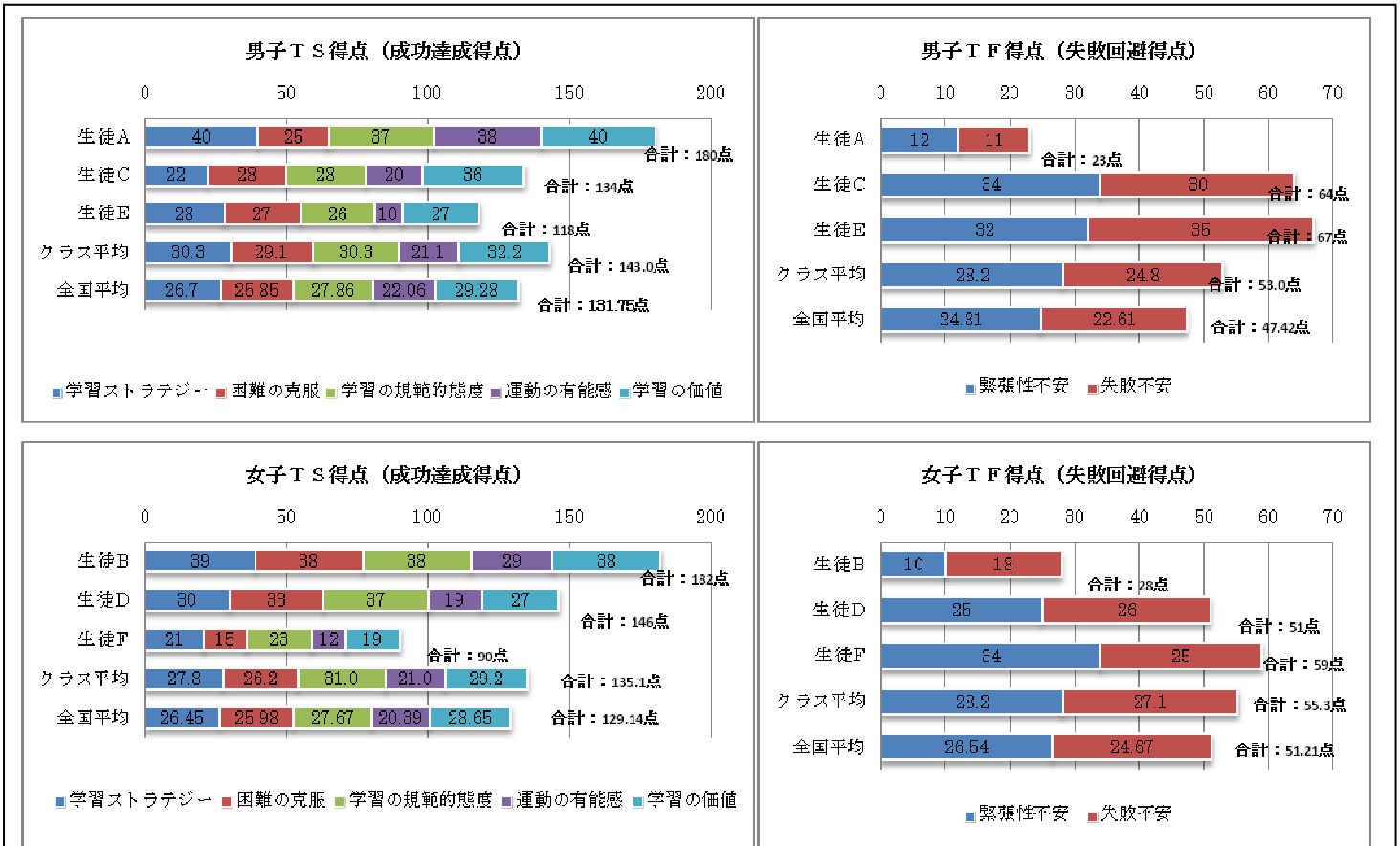
みやま市立高田中学校 第1学年1組 34名(男子18名, 女子16名) 於 体育館

単元名「ダンス(創作ダンス)」

### 1 事前調査

#### (1) AMPET (体育における学習意欲検査)

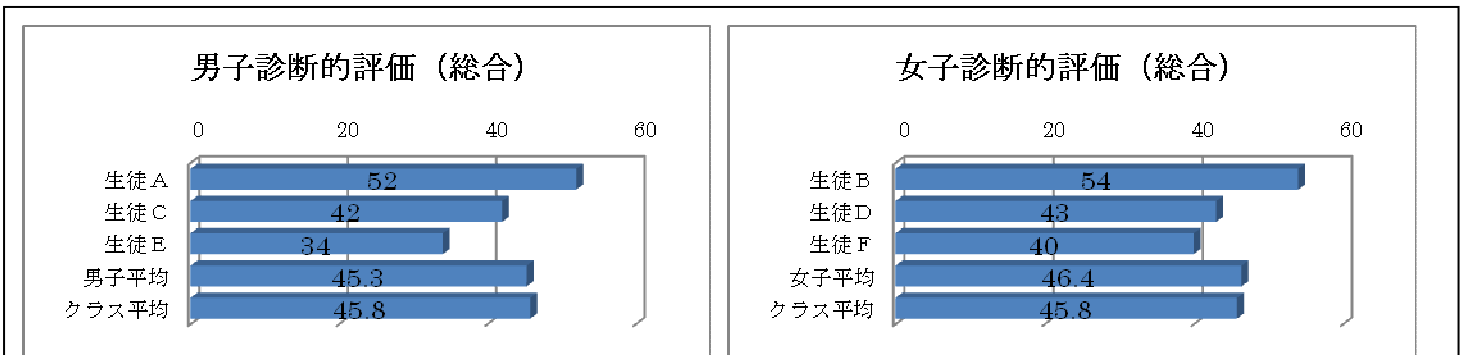
生徒の体育における学習意欲を知るため、西田(2004)によって開発されたAMPET(体育における学習意欲検査)調査を行った。体育学習を促進させる意欲的側面(TS得点)については、男女とも学級平均が全国平均に比べ高かった。体育学習を抑制する回避的側面(TF得点)についても、男女とも学級平均が全国平均に比べ高く、**緊張や失敗への不安を感じている生徒が多い学級であること**と、男女とも運動有能感が低く、運動に対する自信が持てていない生徒がいることが分かった。



【資料3-①: AMPET (体育における学習意欲検査) TS得点とTF得点の抽出生の結果】

#### (2) 診断的授業評価

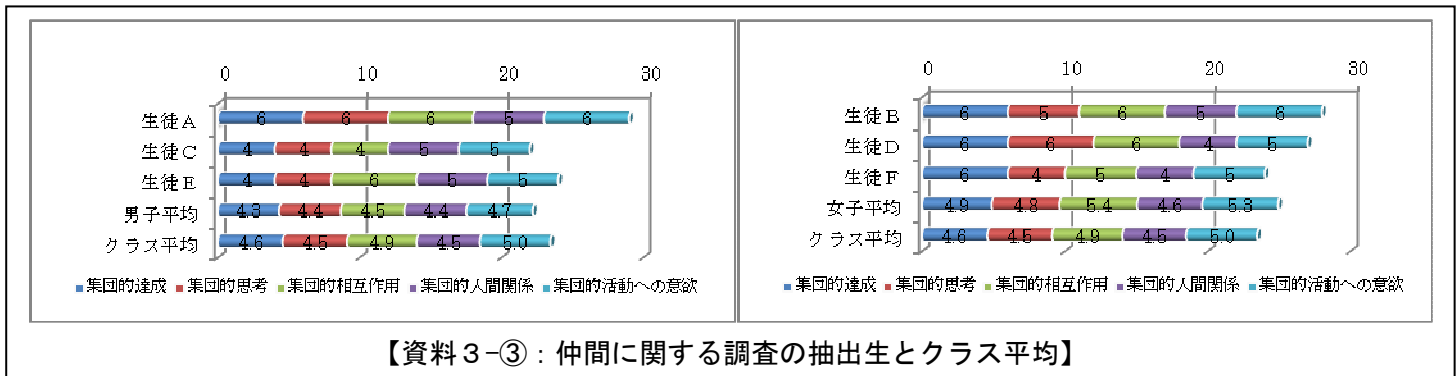
生徒の体育授業についての意識を調査するため、授業評価尺度(高橋, 岡澤, 高田ら2000)を用いて診断的授業評価を行った。診断的授業評価では、学級全体の総合評価の平均点が45.8点と中学校段階の診断基準0(47.45～41.22)内に位置しており、体育授業の意欲に関しては、標準的な学級であることが分かった。



【資料3-②: 診断的評価の抽出生とクラス平均】

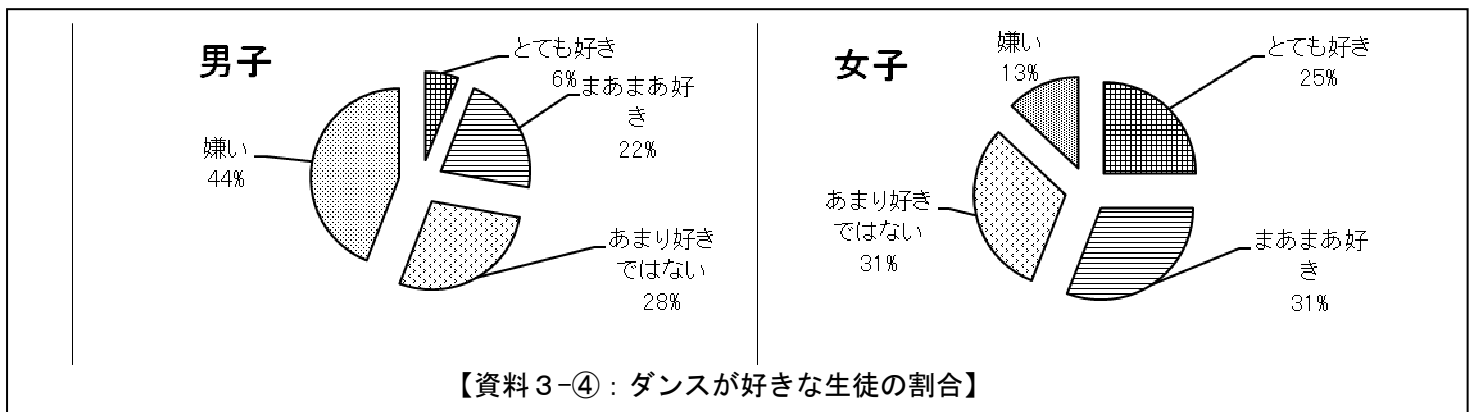
### (3) 仲間に関する調査

体育授業において営まれる生徒間のかかわり合い活動や仲間づくりの成果を知るため、授業評価尺度（高橋，岡澤，高田ら 2000）を用いて、体育の授業における仲間に関する調査を行った。「集団的相互作用」や「集団的活動への意欲」において、他の項目より学級平均は高く、「集団的思考」や「集団的人間関係」が他の項目より学級平均が低かった。このことから、**グループ全員で楽しんだり、もっとやってみたりする活動意欲はあるが、話し合う活動において、積極的に意見を出すことや仲間と協力して取り組み、一体感や連帯感を味わえていない生徒がいる**ことが分った。



### (4) ダンスに関する事前調査

独自に作成したダンスに関する調査において、「今までのダンスを学習した経験」の質問では、全員の生徒が小学校の運動会でソーラン節やリズムダンスを踊ったことがあり、現在、ヒップホップのフリースタイルを習っている女子生徒が2名在籍していた。また、「ダンスが好きですか」という質問では、『あまり好きではない』、『嫌い』の回答が、男子72%、女子44%の生徒であった。【資料 3-④】その主な理由は、「踊ることが恥ずかしい」、「リズムにのれず、うまく踊ることができない」などであり、事前の調査では、**ダンスの学習に対して不安を感じ、意欲が低い**ことがうかがえた。



これらの調査結果をもとに、抽出生徒を次のA・B・C・D・E・Fの6名に設定した。

	AMPET	診断的授業評価	仲間に関する調査	ダンスに関する実態調査	(新体力テスト総合評価)
上位	生徒A 体育学習への意欲が非常に高く、緊張や失敗への不安も低い。	診断基準+ 合計 52 点	合計 29 点	ダンスについてはあまり好きではないが、リズムに乗って踊ることは楽しい。	A 判定
	生徒B 体育学習への意欲が非常に高く、緊張や失敗への不安も低い。	診断基準+ 合計 54 点	合計 28 点	ダンスについてまあまあ好きで、練習して上手になると、とてもうれしく感じる。	C 判定
中位	生徒C 体育学習への意欲は全国・クラス平均より若干低く、緊張や失敗への不安が高い。	診断基準0 合計 42 点	合計 22 点	ダンスについてはまあまあ好きで、リズム感がなく苦手であると人前で踊るのが恥ずかしい。	D 判定
	生徒D 体育学習への意欲は全国・クラス平均より高く、緊張や失敗への不安も平均より低い。	診断基準0 合計 43 点	合計 27 点	ダンスについてはとても好きで、ヒップホップを習っており、音楽に合わせて踊ることが好きである。	B 判定
下位	生徒E 体育学習への意欲が低く、緊張や失敗への不安も高い。	診断基準- 合計 34 点	合計 24 点	ダンスについては嫌いで恥ずかしく、人前で踊ることに抵抗を感じている。	E 判定
	生徒F 体育学習への意欲も低く、緊張や失敗への不安も高い。	診断基準- 合計 40 点	合計 24 点	ダンスについてはあまり好きではなく、人前で踊ると緊張する。	C 判定

## 2 「であう」段階(第1時)

### (1) 目指す生徒像

- ア 題材から表したいイメージを動きに変えて、即興的に表現することができる。(技能)  
イ 仲間とかかわり合いながら、積極的に運動に取り組むことができる。(態度)  
ウ **ダンスのねらいについて理解し、単元の見通しを持つことができる。(知識、思考力・判断力)**

### (2) 手立て

◇ 学習展開の工夫

- ・ **仲間とともに楽しく活動するために「ほぐしタイム」の設定**

◇ 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

- ・ **ペアとグループ活動を取り入れた『交流』する活動の設定**

### (3) 授業展開

「であう」段階では、単元の見通しを持たせるためのオリエンテーション【写真1】と**仲間との交流を主体とした「ほぐしタイム」**を行った。

オリエンテーションでは、学習のねらいや進め方などを説明し、学習に対する見通しを持たせた。

グルーピングについては、事前調査の結果や学級担任と相談の上、男女4～5人のグループを4組つくって、オリエンテーションで発表した。

「ほぐしタイム」では、仲間と楽しく動きの交流をさせるために、**ペアでの簡単な創作活動**を行った。『決定的パンチ』を題材に、まず、生徒が動きのイメージを持てるように教師がモデルを示した。生徒には、スローモーションの動きや繰り返しの動きを取り入れて、「より誇張して、動いてみよう」と伝え、自分のイメージで自由に動かさせた。



【写真1：オリエンテーションの様子】



【写真2：ペアで創作活動を行う生徒E】

### (4) 考察

仲間とともに楽しく活動する「ほぐしタイム」を設定し、**ペア活動**を取り入れることで、生徒は、ペアで動きの交流を図りながら、楽しく活動することができると考えた。しかし、オリエンテーションの内容を精選することができず、「ほぐしタイム」では、**ペアで『交流』する(話し合い)活動**の時間を十分に取れなかった。

また、生徒に「ほぐしタイム」の意図や目的を十分に理解させることができずに、取り寄せたこともあり、心と体をほぐし、積極的に仲間と交流できなかつたと考える。

その根拠は、学習後の感想から生徒A：「みんなそれぞれ違う動きで見て、楽しかった。」や生徒F：「みんなと仲良くできた。」など仲間と楽しく活動することができた感想や【写真2】のように、スローモーションの動きやフットワークを使って、相手との距離を近づけたり、離れたりする動きを工夫するペアが見られた。生徒の感想からは、【資料4】のように恥ずかしがって、動きが小さく、見てだけの生徒もいて、精一杯活動させたり、心と体をほぐす活動の時間が十分に取ったりすることができなかつた。

以上のことから、「ほぐしタイム」を設定し、**ペア活動**を取り入れたことは、仲間とともに楽しく活動する上で有効であったと考えるが、オリエンテーションの内容を吟味するとともに、恥ずかしがらずに安心して表現できる雰囲気をつくりながら、「交流」する活動の時間を十分に取る必要があったと考える。

わたしは、恥ずかしがることがあまりできなかったのですが、次は、楽しく動けるようになりたいです。

自分も恥ずかしいけど、まわりの人も同じ気持ちなんだよ。と、思いました。その中で、恥ずかしがらずに動けるようになりたいです。

【資料4：授業後の感想】

### 3 「つかむ」段階(第2時～第4時)

#### (1) 目指す生徒像

**ア イメージしたことを動きに変えたり、動きに変化をつけたりして即興的に表現することができる。(技能)**

イ 励まし合ったり、賞賛し合ったりするなど仲間とかかわり合いながら積極的にダンスに取り組むことができる。(態度)

ウ 動きのねらいについて理解し、仲間とともに動きを工夫することができる。(知識、思考力・判断力)

#### (2) 手立て

◇ 学習展開の工夫

・「ほぐしタイム」, 「やってみようタイム」, 「見せ合いタイム」の設定

◇ 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

・ペアとグループ活動を取り入れた『交流』する活動の設定

#### (3) 授業展開

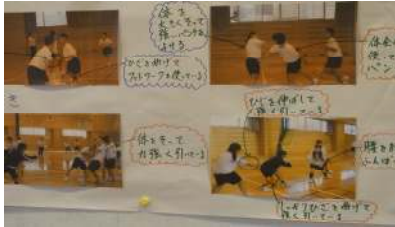
学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	生徒の姿 (生徒 A・B・C・D・E・F の反応)
<p>◆「ほぐしタイム」(第3時)</p> <p>・『だるまさんが転んだ』</p> <p>◇歩いて止まったり、走って止まったり、スキップして止まったりする動きの中で、対極の動きを身につけさせるために、以下のように多様な動きを体験させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立って止まる。</li> <li>・片足を上げて止まる。</li> <li>・手をついて止まる。</li> <li>・自由にポーズを決めて止まる。</li> </ul>  <p>【写真4：片足を上げて止まる】</p>  <p>【写真6：自由にポーズを決めて止まる】</p>	 <p>【写真3：立って止まる】</p> <p>生徒 A：どの動きも仲間とともに楽しく動いていた。特に片足を上げて止まる時は、バランスを取って片足でしっかり止まっていた。</p> <p>生徒 B：どの動きも仲間とともに動いていたが、体を大きく使って動くことはできなかった。</p> <p>生徒 C：どの動きも楽しく動いていた。特に手をついて止まる時は、【写真5】のように膝をまげ、しっかり低い姿勢で止まることができた。</p> <p>生徒 E：動く内容は理解できていたが、みんなの後ろの方立って、動こうとはしなかった。</p> <p>生徒 F：生徒 B と一緒に動いていたが、体を大きく使って動くことはできなかった。</p>    <p>【写真5：手をついて止まる】</p>



◆学習のめあてと内容の確認

◇毎時間、前時の学習の良かった動きを【資料5】のように、写真にコメントを書いて生徒に紹介し、動きを時間・力・空間の要素から工夫できるように解説する。

◇単元の実施期間中は、体育館に掲示し、動きヒントカードとして活用させる。



【資料5：動きヒントカード】

◆「やってみようタイム」

①『体育祭ダイジェスト』（第2時）

◇「綱引き」のストーリーを例示し、デフォルメした動きをイメージさせるために、スローモーションや繰り返しの動きを取り入れ表現させる。

「交流」する活動  
グループ活動

②『対極の動き』（第4時）

・「力強い動き」⇔「やわらかい動き」

◇「やわらかい動き」を引き出すために紙を落とさず動く活動を行わせる。**ペア活動**

手を上げて、その上を越えさせる  
対応した動きを行っているペア。



こんな感じに動いてみるといいのか。



【写真7：説明を聞いている生徒C・E】

生徒C：下を向いたりすることもありますが、話を聞いて理解していた。

生徒E：自分の動きが紹介されたので、うれしなながらも、嬉しそうにしていた。



【写真8：動きの練習を行う抽出生徒】



【写真9：『交流』する抽出生徒】

はじめは、うまく話し合いが進まなかったが、生徒Dを中心に、グループでアイデアを出し合って、綱引きで表したい感じを表現していた。

引っぱられて  
たまるか。



綱引きでの引っぱる、引っぱられる様子を繰り返しの動きで表現したり、勝負が決まる場面をスローモーションの動きで倒れたりするなど工夫した動きを行っていた。

【写真10：動きの練習を行う抽出生徒】



【写真11：ペアの回りを走る様子】

どの生徒も紙を落とさないようにしながら、速く動いたり、ゆっくり動いたりして楽しく活動していた。

◇「力強い」や「やわらかい」動きをイメージさせ、イメージした動きをペアで共有させるために、言葉や動きで説明したり、まねをしたりする『交流』する活動を設定した。

**「発信」交流する活動、ペア活動**



【写真 12：生徒 A が『発信』する様子】

生徒 A：自分の考えた動きを言葉と動きで説明し、みんなにまねをさせて動かしていた。

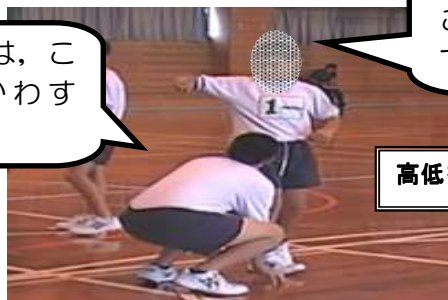
◇考えた動きを緩急や強弱をつけたり、高低を使ったりして工夫するようにアドバイスをを行う。

**「交流」する活動、ペア活動**

生徒 C：動きながら考えて、仲間に言葉と動きで伝えていた。  
生徒 E：仲間の動きをまねすることはできるが、自分のアイデアや動きをイメージしたり、伝えたりすることはできなかった。

じゃあ、僕は、こうやってかわすね。

こうやって回るから、こんな感じでかわして。



**高低を使った動き**

【写真 13：動きの練習を行う生徒 C・E】

生徒 C・E：「力強い感じ」の動きでは、対決の動きを行っていた。スローモーションやまわる動きで、動きを工夫して取り組んでいた。

**◆「見せ合いタイム」(第4時)**

◇ペアで練習した動きをグループで見せ合い、グループごとに動きの良かった所を確認させ、【資料 6】に評価させる。

**ペア・グループ活動**



【写真 14：「見せ合いタイム」を行う抽出生徒】

◇【資料 6】を用いて、本時の学習を振り返らせ、次時の学習課題を持たせる。「内省」する活動

**★私もあなたもダンサー★**

1年 組 番 氏 名 ( )	
今日のテーマ	お互いの良さを発見しよう
月 日	君・さんの動作・踊りの がよい・好き
	君・さんの動作・踊りの がよい・好き

【資料 6：学習ノート】

生徒 D：「やわらかい感じ」の動きでは、【写真 15】のように手をゆらゆらしながら動くとともに、ペアの人と対称する動き（シンメトリー）で動く工夫をしていた。



【写真 15：「見せ合いタイム」を行う抽出生徒】



【写真 16：『内省』する活動を行う様子】

生徒は仲間の動きの良い所や自己評価を書くことはできたが、感想をグループや全体で『交流』させる場面を設定しなかった。

#### (4) 考察

「ほぐしタイム」では、【写真3, 4, 5, 6】のように積極的に取り組んでいる生徒もいれば、立っただけで何もしない生徒や、動きはするが恥ずかしさを笑ってごまかしている生徒もいた。また、発問や生徒の感想の中から学習する内容やポイントを引き出したり、教師が活動ごとに動きの良さを賞賛したり、生徒にフィードバックしたりする、教師の相互作用が少なかったことで、生徒たちが安心して表現できる雰囲気をつくれなかったと考える。

「やってみようタイム」では、**ペアやグループ活動**でイメージや動きを共有しながら、工夫するために「**交流**」する活動を設定した。仲間と教え合いながら、動きを共有したり、工夫したりする姿も見られた。

その根拠は、授業終了時に行う自己評価（5つの質問項目：4段階評価）において、③「**仲間と教え合いながら活動できた**」の項目でクラス平均が徐々に向上したとともに②「**いろいろな友達と踊りで交流した**」の項目では、クラス平均が高い得点であった。【資料7】また、**ペアやグループ活動**での「**交流**」する活動を設定したことで、**ペアやグループ**で活動し、教え合い、アイデアを出し合うことが動きをより工夫する上でも有効であったとかがえる。【写真10, 11, 13】

しかし、生徒の意見を引き出す場面が少ないなど教師の相互作用が少なかった。また、「**交流**」する活動の時の視点が整理できなかつたり、動きを上手く工夫することができなかつたりするなど、動きの高まりが見られない生徒もいた。

このことは、「**交流**」する活動において、話し合い活動が進まないグループやペアへの言葉かけが必要であると考えられる。

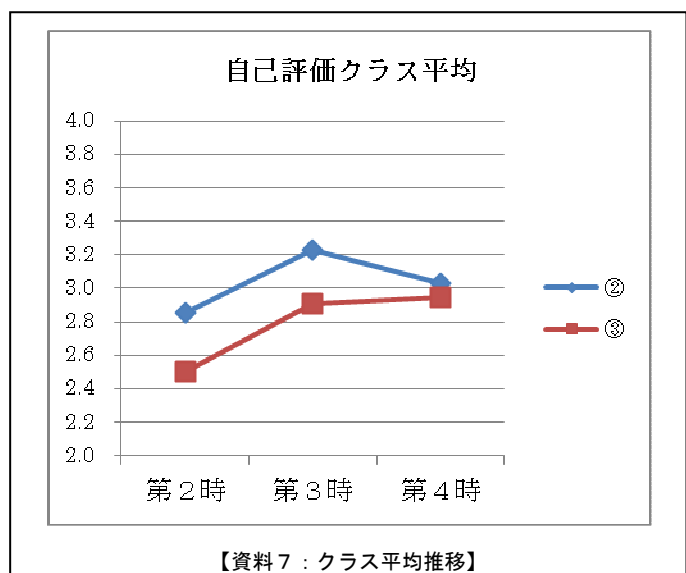
「**見せ合いタイム**」を設定したことは、「やってみようタイム」で練習した動きを【写真14・15】のように発表するとともに仲間の動きの良い所や工夫した動きを発見する上で有効であった。

その根拠は、【資料8】のように毎時間、記述させる学習ノートの〈お互いの良さを発見しよう〉の欄から仲間の動きの工夫やアイデアなど良い所を見つけ、評価する記述が見られたことである。

しかし、恥ずかしがって、笑って動きが小さかったり、動かなかつたりするペアもあった。また、「力強い」動きでは、生徒たちのイメージを固定化させないように、動きの例示だけを行ったが、生徒のイメージは「対決」や「力こぶのポーズ」の単調な動きばかりになってしまった。

本時の学習を振り返らせる「**内省**」する活動では、仲間や自己の評価はできているが、授業の感想をグループや全体で「**交流**」する活動を設定しなかつたので、動きの高まりや具体的にどんな感想を書けばよいか理解させることができなかつたと考える。また、動きを引き出す言葉かけがないことで生徒たちは、偏ったイメージや動きになったと考える。

以上のことから、「やってみようタイム」を設定し、**ペアやグループ活動**を取り入れたことは、仲間と教え合いながら、アイデアを出し合うことが動きをより工夫する上で有効であったと考える。さらに、「ほぐしタイム」で心と体を十分にほぐすことや、「やってみようタイム」の活動で動きをより引き出す言葉かけなど、教師の相互作用で生徒はより言語活動が充実し、動きも高まっていくと考える。



〈お互いの良さを発見しよう〉

生徒A：生徒Eの力強い感じから弱い感じになる所が良かった。

生徒B：生徒Dのアイデアがとても良く、一生懸命取り組んでいたのが良かった。

生徒C：生徒Eの力強い動きからやわらかい動きになる所が良かった。

生徒D：生徒Fの動きが大きい所が良かった。

生徒E：生徒Cのナックルパンチの動きが良かった。

生徒F：生徒Dの力強い所が良かった。

【資料8：4時間目学習後の抽出生徒のノートから】



#### 4 「高める」段階(第5時～第7時)

##### (1) 目指す生徒像

ア 表したいイメージにふさわしい動きを考え、動きに緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりして、即興的に表現することができる。(技能)

イ 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間とかかわり合いながら、互いに役割を果たし、積極的にダンスに取り組むことができる。(態度)

ウ 表したいイメージにふさわしい動きを動きカードに表し、グループに合った表現の仕方を工夫することができる。(知識, 思考力・判断力)

##### (2) 手立て





◇ 学習展開の工夫

・「ほぐしタイム」, 「広げようタイム」, 「見せ合いタイム」の設定

◇ 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

・ペアとグループ活動を取り入れた「交流」する活動の設定

##### (3) 授業展開

学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	生徒の姿 (生徒 A・B・C・D・E・F の反応)
<p>◆「ほぐしタイム」</p> <p>①『ペーパームーブメント』(第5時)</p> <p>◇紙を使って、緩急や強弱、高低を使った動きを身につけさせる。</p> <p><b>ペア活動</b></p> <p>②『ペアなわとび』(第6時)</p> <p>◇学習意欲を高め、仲間と呼吸を合わせたり、リズムに合わせるために、手をつないだり、向かい合って跳ばせる。</p> <p><b>ペア活動</b></p> <p>③『ブザービート』(第6時)</p> <p>◇生徒が表したいイメージにふさわしい動きを考え、表現できるように、前時4コマ創作で生徒が考えたバスケットボール『ブザービート』を題材に、ペアで簡単な4コマ創作をさせる。</p> <p><b>「発信」「交流」する活動</b></p> <p><b>ペア活動</b></p>	<p>生徒の姿 (生徒 A・B・C・D・E・F の反応)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>紙を落とさないようにしながら、緩急や強弱、高低をつけた動きができていた。</p> <p>【写真17:『ペーパームーブメント』を行う様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>はじめは、うまくできなかったが、少しずつ呼吸や音楽に合わせて活動することができた。</p> <p>【写真18:『ペアなわとび』を行う抽出生徒】</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>生徒 E はバスケットボール部で、イメージしやすい題材だったので、ドリブルロール(生徒E)を使って、デイフェンス(生徒C)をかわす動きを表現した。</p> <p>【写真19】</p> <p>【写真19:ブザービートを表現している抽出生徒C・E】</p>

止めるぞ!

◆「広げようタイム」

①『ペア4コマ創作』（第5時）

◇題材から表したいイメージや動きを持ちやすいように、以下のスポーツからテーマと題を決めさせる。

- ・バスケットボール
- ・サッカー
- ・野球
- ・バレーボール

「発信」「交流」する活動、ペア活動

◇生徒に4コマ創作の手順を理解させるために、黒板にストーリーと動きの図を提示し、教師が動きの例示を行う。



【写真21：「バレーボール『あと一点で勝利』の例示】

◇生徒が表したいイメージにふさわしい動きを考えるために、動きカードにストーリーと動きを文字や絵で記入させる。

「発信」「交流」する活動  
ペア活動

◇動きカードの記入と話し合い活動の時間を設定し、ペアで動きを創作させる。



キーパーの前では、にらみ合いにしようか。

題は、ブザービートにしよう。

テーマは、バスケットボールにしようか。

ジグザグのドリブルで相手をかかわそう。

【写真20：文字や絵を使って『発信』『交流』する活動を行う様子】

ストーリー	テーマ(バレー)	小題(あと一点で勝利)
① サーブ	①	①
② レシーブ・トス	②	②
③ アタックする	③	③
④ 点が入る	④	④

【資料9-①：生徒Bペアの動きカード】

ストーリー	テーマ(バスケット)	小題(ナイスシュート)
① ドリブル	①	①
② ヒール	②	②
③ ドリブル	③	③
④ シュート	④	④

【資料9-②：生徒D・Fペアの動きカード】

ストーリー	テーマ(サッカー)	小題(あと一点で勝利)
① パス	①	①
② 6人ぬき	②	②
③ キーパーと1対1で足がかり(マー)	③	③
④ 立く	④	④

【資料9-③：生徒Aペアの動きカード】

ストーリー	テーマ(バスケット)	小題(ブザービート)
① おい(あ)い	①	①
② DFをかわく	②	②
③ 一人で走り出す	③	③
④ 最後の最後に、きこか(い)いの、ブザービートと決める	④	④

【資料9-④：生徒C・Fペアの動きカード】

【資料9-①②③④】のように、どのペアも自分の考えや動きを文字や絵で表す『発信』する活動を基にして、ストーリーや動きを話し合う『交流』する活動はほとんどの生徒ができていた。



◇動きの練習をしながら、緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫させたりするためにアドバイスをを行う。

**ペア活動、「交流」する活動**

はい、私にパス！



やったー！

ナイスシュート  
やったねー！！

【写真 22：ナイスシュート☆を表現する生徒D・F】

②『グループ4コマ創作』

(第6・7時)

◇イメージや動きをより膨らませて、発展した動きにするために、人数を2人から4～5人のグループ創作で活動させる。**グループ活動**

◇付箋紙を使って、ブレインストーミングを行い、たくさんのアイデアを出させる。

**「発信」「交流」する活動**



始めは、付箋紙の使い方が良く分かっていない生徒もいたが、使い方を補足説明したら、付箋紙に記入したアイデアを模造紙に貼りながら、ストーリーや動きを決めていた。

【写真 23：『発信』『交流』する活動を行う抽出生徒】

**4コマ創作ストーリー**

◇創作した動きをより時間・力・空間の要素から変化のある動きにするために、各グループの模造紙に教師のアドバイスや賞賛した言葉を入れ、それを参考に練習させる。

**「交流」する活動、グループ活動**



【写真 24：教師のアドバイスを確認して動きの構想を練る様子】

◇動きが時間・力・空間の要素から工夫できるように以下のことを伝える。

- ・体を大きく使う。
- ・動きを速くしたり、スローモーションの動きを使ったりする。
- ・場所を広く使う。
- ・声や表情を工夫する。



①生徒Cがドリブルで相手ゴールに突き進む。



②生徒Cを止めようとするが、ドリブルが速すぎて、吹き飛ばされる。



③シュートを生徒Eにカットされそうになるが、かわしてシュートを打つ。



④シュートがリングを転がり、リバウンドを生徒Eに取られる。生徒Cは倒れて悔しが

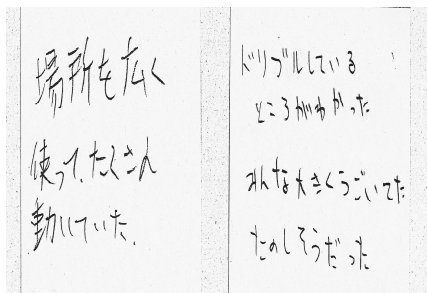
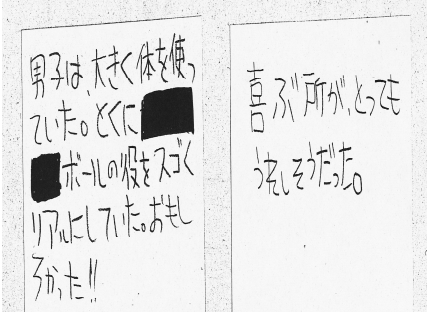
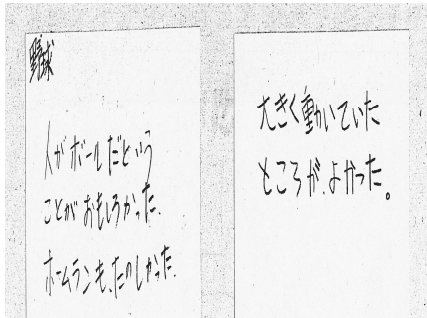
【写真 25：抽出生徒グループ

4コマ創作ストーリー】

◆「見せ合いタイム」(第7時)

◇グループで動きを賞賛したり、アドバイスしたりするために、全体を2つのグループに分けて発表させる。また、動きの良い所や気づいたことを付箋紙に記入させ、仲間の作品を評価させる。【資料10】

グループ活動、「交流」する活動



【資料10：生徒が記入した付箋紙】

◇本時の学習を振り返り、次時の学習課題を持たせるために、数名に発表させる。

「内省」「発信」「交流」する活動



デフォルメしたり、目線を工夫したりした動きでホームランを表現

【写真26：『逆転サヨナラ満塁ホームラン』を表現しているグループ】



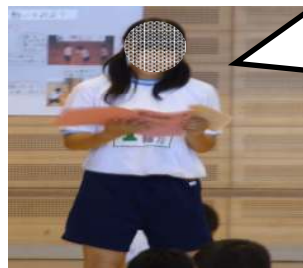
体を大きく使い、入モーションの動きで剛速球を表現

【写真27：『炎の剛速球』を表現しているグループ】

スピードをつけたり、場所を広く使ったりした動きでバスケボールの攻防を表現



【写真28：『ブザービート』を表現しているグループ】



今日は、今までで一番楽しかったし、頑張りました。いっぱい走り回れたし、動けたので、次も楽しみです。

【写真29：発表している様子】



#### (4) 考察

「ほぐしタイム」では、生徒が興味を持つような題材を選択し、仲間とかかわりながら、即興的に表現させ、心と体をほぐす活動として取り組ませた。【写真 17・18・19】ブザービートでは、前時に、ペア4コマ創作で生徒が考えた動きを例示し、生徒に発問したり、賞賛したりする相互作用をすることで、【写真 19】のようにペアで即興的に表現することができた。しかし、活動のねらいを十分に理解しないまま活動する生徒や活動するまでに時間がかかる生徒もいた。

「広げようタイム」では、ペアやグループで「交流」する活動を通して、仲間とかかわりながら活動することで、【写真 26・27・28】のように緩急や強弱をつけたり、空間の使い方を工夫したりすることができたと考える。

これらの根拠は、まず、【資料 11】のように⑤「仲間とアイデアを出し合って動きを工夫できた」の項目において「である」「つかむ」段階よりも「高める」段階後は、クラス平均が向上したことが言える。これは、練習をする時は、「話し合いながら動く」ことや「動きながら話す」ために模造紙を壁に貼り、活動させたことが、有効であったと考える。【写真 24】

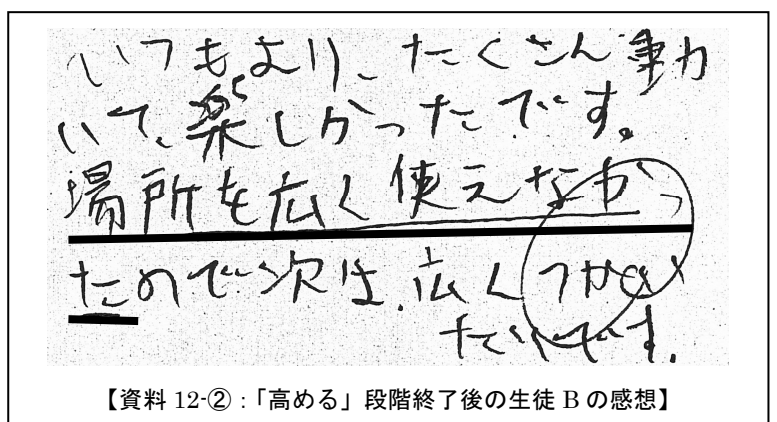
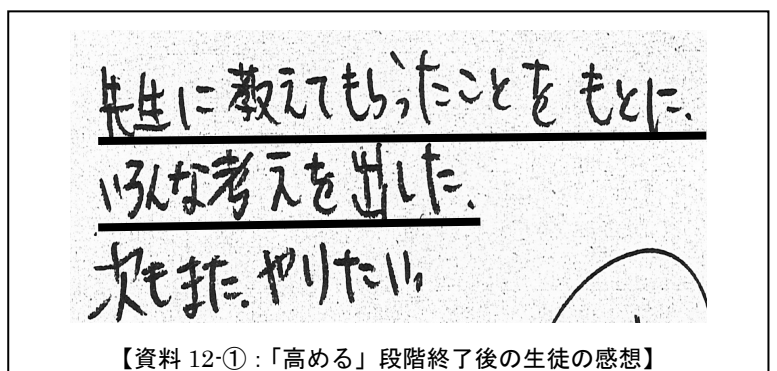
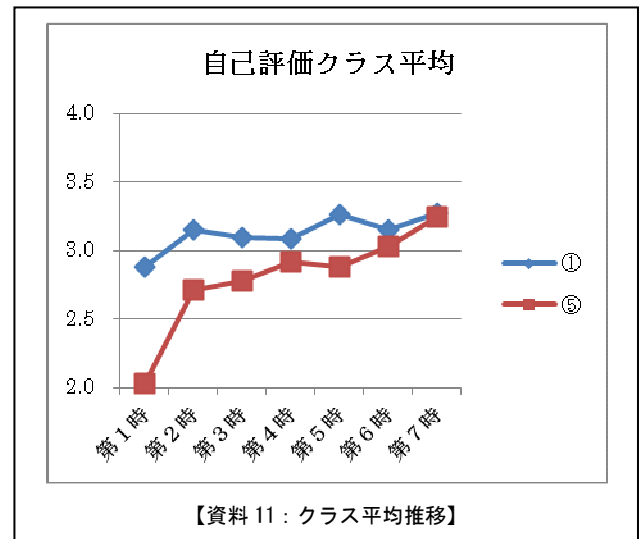
また、「交流」する活動において、ブレインストーミングを行い、たくさんのイメージやその動きのアイデアを出させたが、動きのイメージを出せない生徒や書くことに夢中になって、話し合いが上手く取り組めていないペアやグループも見受けられた。このことは、上手くできているペアやグループを賞賛したり、アイデアを紹介したりするなど、さらなる相互作用が必要であったと考える。

「見せ合いタイム」では、各グループ創作した動きを【写真 26・27・28】のように、工夫して、伸び伸びと表現することができ、見る側も付箋紙に良い所や気づいたことなどを記入し、【資料 10】からもより誇張した動きで表現できたことがうかがえる。

授業後の感想からも【資料 12-①】のように生徒が創作活動を行っている時に、教師がグループを巡視しながらアドバイスをしたり、一緒に考えたりしたことで、生徒の意欲をよりかきたてることや自信を持って、表現することができたと考える。また、【資料 12-②】のように、時間・力・空間の要素からの感想も見られるようになり、生徒 F も「速く動くことを工夫した」と時間の視点からの感想を記述していた。

生徒 C の「1人で活動するより楽しい。」や生徒 E の「だいぶ楽しくなってきました。」など、ほとんどの生徒が「今までで一番楽しかった。」や「次もしたい。」という感想であった。このことは、【資料 11】のグラフ①「体をいっぱい使って、仲間と楽しく踊れた」の項目においてクラス平均が 3.2 点（第 7 時）と今までの段階で最も高い得点からや【資料 12】生徒の感想からもうかがえる。

以上のことから、「広げようタイム」を設定したことは、「交流」する活動を通して、時間・力・空間の要素から動きを工夫する上で有効であったと考える。また、『スポーツ 4 コマ創作』をペア創作で考えたアイデアを基に、グループ創作へと発展したことで、動きのアイデアが増え、群による動きの工夫が見られた。



## 5 「いかす」段階(第8時～第9時)

### (1) 目指す生徒像

**ア** 歌詞や曲の特徴をとらえ、表したいイメージにふさわしい動きを考え、変化をつけたひとまとまりの動きで表現することができる。(技能)

**イ** 話し合ったり、教え合ったりするなど、仲間の良さを認め合いながら、互いに役割を果たすことができる。(態度)

**ウ** 表したいイメージにふさわしい動きを表し、表現の仕方を工夫することができる。(知識、思考力・判断力)

### (2) 手立て

◇ 学習展開の工夫

・「深めようタイム」, 「見せ合いタイム」の設定

◇ 『交流』する活動を促す学習形態の工夫

・グループ活動を取り入れた「交流」する活動の設定

### (3) 授業展開

学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)

生徒の姿 (生徒 A・B・C・D・E・F の反応)

#### ◆「深めようタイム」

①『合唱曲をダンスに創作』  
(第8・9時)

◇グループで合唱曲『Song is my soul』のイメージとその動きを付箋紙に記入させる。「発信」する活動

◇各自が記入した付箋紙を【資料13】に添付し、考えたイメージや動きをつなぎストーリーをつくらせる。

【写真30】

「発信」「交流」する活動  
グループ活動

テーマ(Song is my soul) ( )班メンバー( )

表したいイメージ	動き	
①	①	②
②		
③	③	
④		

【資料13：動きカード】

◇考えたストーリーを緩急や強弱、空間の使い方を工夫したり、アシンメトリーやカノンなど群の動きにしたりして、動きを深めさせる。【写真31・32・33】

「発信」「交流」する活動  
グループ活動



【写真30：考えたイメージや動きをつなげている様子】

このイメージは、この後がいいね。

僕のイメージは、「夢」だから・・・ここがいいね。

その動きを1人ずつ、ずらして動いてみよう。

ここは、大きく手を上げてみよう。



【写真31：動きを深めるために『交流』する活動の様子】



【写真32：カノンの動きで表現】

このグループは「喜び」の動きをカノン（動きをずらして）で表現していた。



【写真32：カノンの動きで表現】



手をつないで集まったり、離れたりする動きや高低を使った動きを繰り返して「仲間」を表現している。



【写真 33：動きを工夫しながら創作する抽出生徒】

◇はじめのポーズとおわりのポーズを決めさせて、ひとまとまりの動きで簡単な作品に創作させる。【写真 34】

**「発信」「交流」する活動  
グループ活動**

高低や奥行きを使ったポーズを決める。

体を大きく使って「仲間のつながり」を表現する。



【写真 34：はじめとおわりのポーズを工夫する生徒】

◆「見せ合いタイム」（第9時）

・発表会

◇学習の成果や他のグループの動きの良さを発見させるために、グループごとに発表させる。

◇男女の動きの違いやそれぞれの動きの良さを見せるために、各班男女一緒に発表させる。

・交流会

◇それぞれ、イメージや動きが違ってても1つの作品になることを気づかせるために各グループで創作した作品を一斉に発表させる。



【写真 35：発表会を行う抽出生徒】

抽出生徒のグループは、【写真 35】のように、創作した動きをカノンやアシンメトリーなど工夫して、発表していたが、動きが小さく、恥ずかしさを笑いでごまかし、メリハリのある表現ではなかった。



【写真 36：全体で交流会を行う様子】

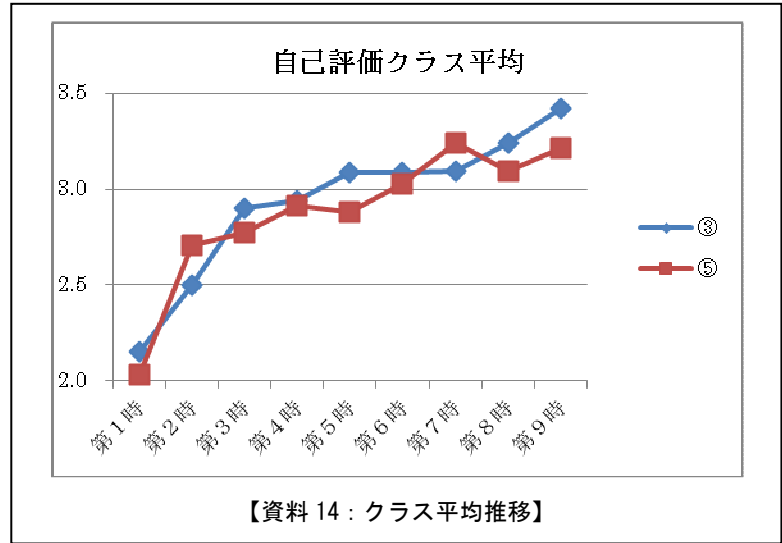


#### (4) 考察

今まで学習したことを生かして、表したいイメージにふさわしい動きを考え、変化をつけたひとまとまりの動きで踊るために、「深めようタイム」としてグループで合唱曲『Song is my soul』をダンスに創作する活動を行った。「深めようタイム」では、「交流」する活動を通して、仲間とかかわり合いながら、密集や分散をくり返したり、カノン、ユニゾンなど群が「空間」を変化する動きや対称（シムトリー）、非対称（アシムトリー）の動きを使ったりして、表現することができたと言える。【写真 32・33・34】

また、表したいイメージやイメージする動きについて、個人からアイデアを出させ、グループでストーリーと動きをつないだことで、【写真 30・31】のように仲間に自分のアイデアを伝えたり、教え合ったりする「交流」する活動がこれまでの段階より活発に行なわれた。

このことは、【資料 14】のように③「仲間と教え合いながら活動できた」の項目と⑤「仲間とアイデアを出し合って動きを工夫できた」の項目でクラス平均が段階ごとに向上し、最終の第 9 時では、これまでの学習で最高点（③3.4 点、⑤3.2 点）だったことからうかがえる。



「見せ合いタイム」では、フロアに発表する場を設定し、発表会を行った。生徒は、見られる緊張感で後ろの方に下がってしまい、練習の時に踊っていたような動きができず、動きが小さく、恥ずかしさを笑いでごまかす感じでメリハリのある表現ではなかった。【資料 15-①】一斉に発表させることで、イメージや動きが違って1つの作品になることを気づかせるとともに、見られている緊張感や恥ずかしさをなくすために発表会の後、全体で交流会を行った。【写真 36】各グループとも、発表会よりも動きが大きくなり、伸び伸びと活動することができた。【資料 15-①】

今回、合唱曲をダンスに創作する活動において、【15-②】のように、生徒達なりに満足感を味わわせることができた。また、学習後の感想からも「またダンスがしたい。」という感想も見られた。

練習は、ちゃんと大きく体を動かすことができたけど、発表のとれがあまりできなかった。

今日は、みんなの前でははしゃいで、動きが良かったけど、練習は大きく動かすことができた。

【資料 15-① 「いかす」段階終了後の生徒の感想】

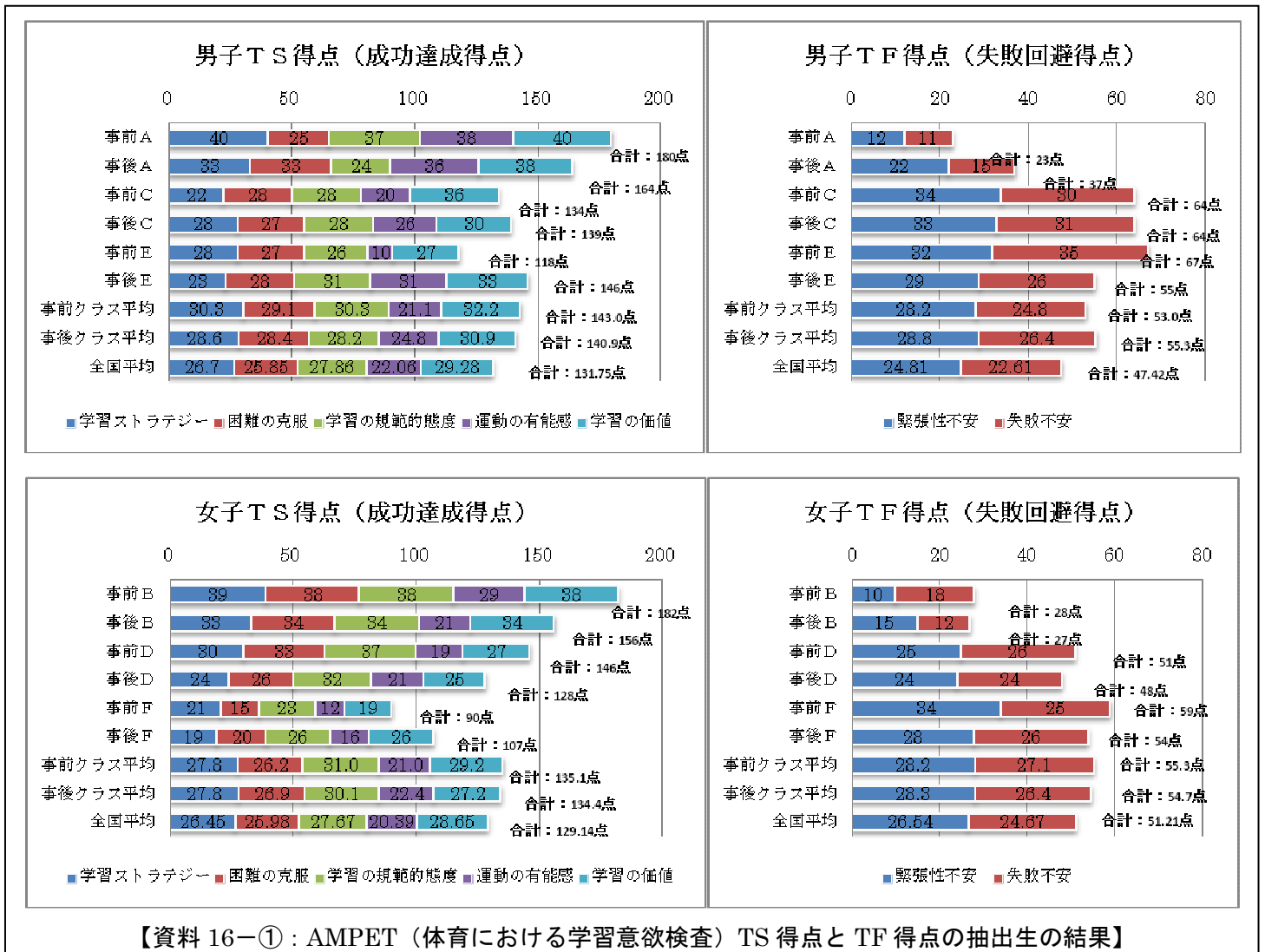
今日は、みんなと楽しく活動できました。みんなが、最高の動きがよかったと思いました。

【資料 15-② 「いかす」段階終了後の生徒の感想】

## 6 事後調査

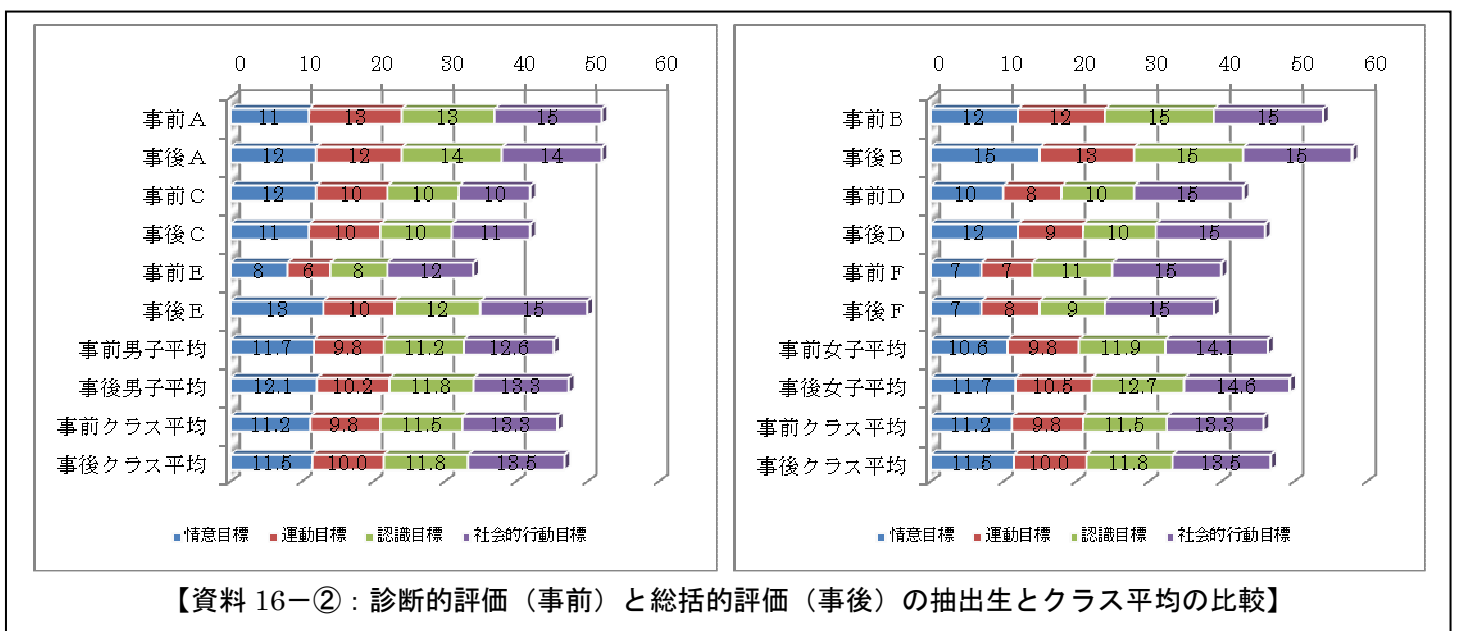
事前調査で行った AMPET（体育における学習意欲検査）、授業評価尺度を用いて総括的授業評価と仲間に関する調査、ダンスの授業に関する事後調査を実施し、それらを比較した。

### (1) AMPET（体育における学習意欲検査）



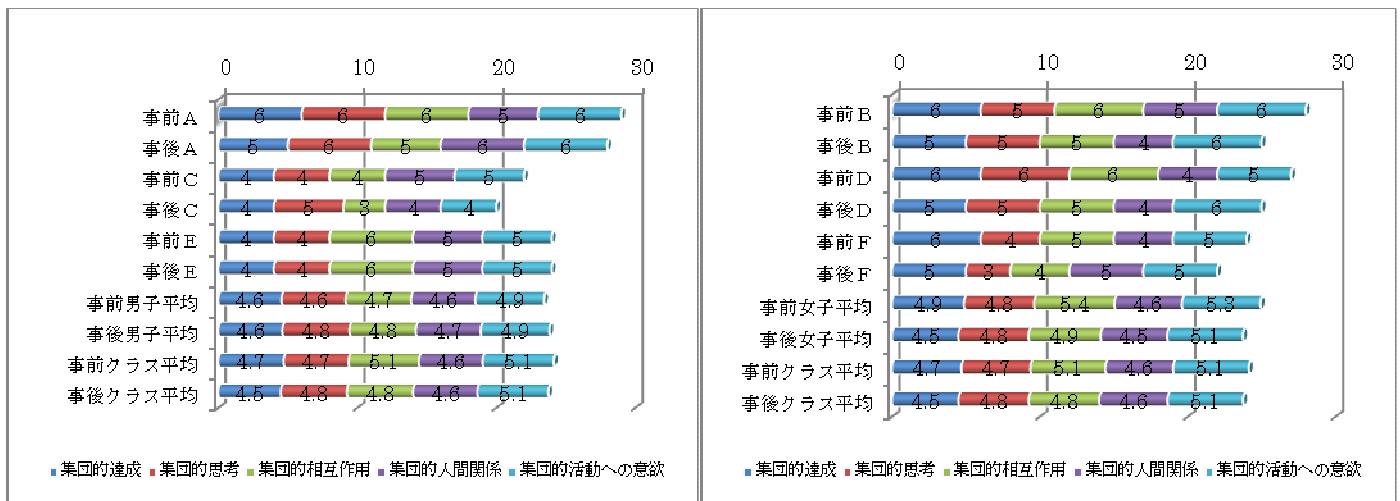
【資料 16-①：AMPET（体育における学習意欲検査）TS 得点と TF 得点の抽出生の結果】

### (2) 総括的授業評価



【資料 16-②：診断的評価（事前）と総括的評価（事後）の抽出生とクラス平均の比較】

### (3) 仲間に関する調査



【資料 16-③】：仲間に関する調査の抽出生徒とクラス平均の比較

以上の調査結果から、抽出生徒と学級平均について以下のようにまとめた。

生徒A：事前調査と比べ、全体的に大きな変化は見られなかったが、グループのリーダーとして、積極的に意見を出してグループをまとめ、仲間に関する調査では、集团的人間関係が6点と高かった。

生徒B：総括的授業評価において、診断的授業評価（事前）よりも、たのしむ（情意目標）の項目で診断基準が0内から+内に向上した。また、集団活動への意欲の得点は6点と高かった。このことから、ダンス学習での活動に対する満足度やさらなる活動欲求を持つことができたとうかがえる。

生徒C：事前調査と比べ、全体的に大きな変化は、見られなかったが、AMPETにおいて、学習ストラテジーと運動有能感の項目で若干得点が上がった。

生徒D：総括的授業評価において、診断的授業評価（事前）よりも、できる（運動目標）の項目で診断基準が-内から0内に向上した。また、集団活動への意欲の得点は事前に比べ6点に向上し、ダンス学習での活動に対する満足度やさらなる活動欲求は持つことができたとうかがえる。

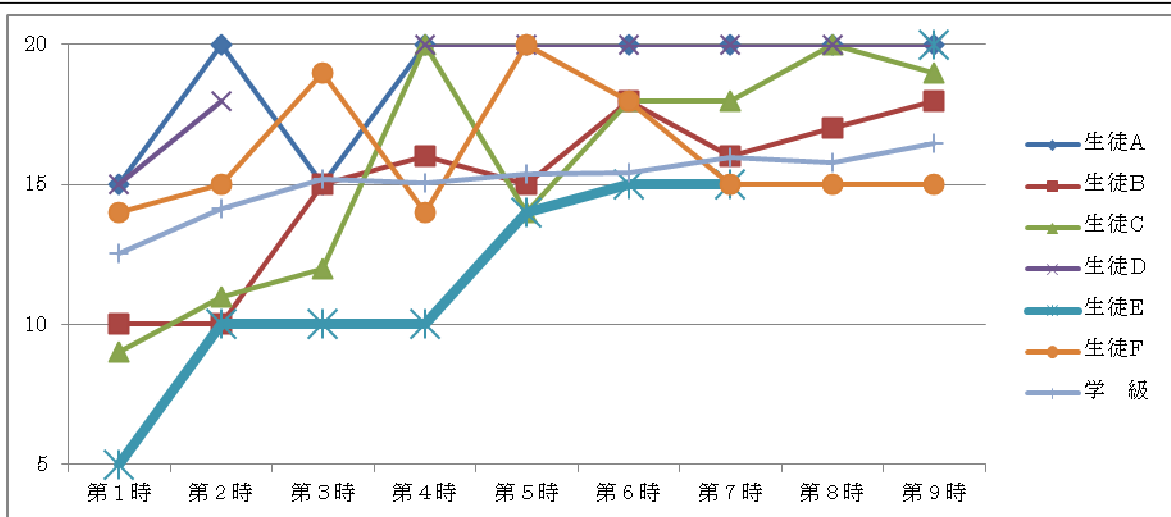
生徒E：診断的評価では、総合評価34点で診断基準-内に位置していたが、事後では、総合評価50点で診断基準+になり、ダンス学習の意欲が高まった。また、AMPETからも事前に比べ、どの項目も上がっているが、特に運動の有能感が21点も上がり、ダンス学習を通して、運動に対して自信や優越感を持ったことがうかがえる。

生徒F：AMPETでは、事前に比べ、どの項目も得点が少し良くなった。特に、学習の価値の項目において少し得点が上がり、ダンス学習を通して、自分なりに目的を持って取り組んだことがうかがえる。

男子平均：診断的評価では、総合評価45.3点で診断基準0内から、総括的評価では、総合評価47.4点で診断基準+内に向上し、体育授業の意欲が高まったと言える。特に、たのしむ（情意目標）の項目では、評価結果が0内から+内に向上し、仲間とともにダンス学習を楽しめたと考える。

女子平均：診断的評価では、総合評価46.4点で診断基準0内から、総括的評価では、総合評価49.4点で診断基準+内に向上し、体育授業の意欲が高まったと言える。特に、まなぶ（認識目標）の項目では、評価結果が0内から+内に向上し、『交流』する活動を通して、目標を持って学習に取り組めたと考える。

(4) 自己評価総得点の推移



【資料 16-④】：自己評価総得点の推移


生徒AとDについては、総得点が高かった。これは、毎時間、自分なりに表現し、「**交流**」する活動において、リーダーとして話し合いや教え合い活動を進め、仲間と協力して積極的に活動できたからであると考える。このことは、【資料 16-⑤】の生徒Dの感想からもうかがうことができる。

生徒BとCは、時間を重ねるごとに総得点が向上していった。これは、段階ごとにグループの仲間とアイデアを出し合い、認め合う友達関係ができたと考える。

生徒Eは、段階ごとに総得点が上がり、最終の第9時では、20点（20点満点中）であった。これは、生徒Eが事前調査でダンスは嫌いで恥ずかしく、人前で踊ることに抵抗を感じていた。授業後の感想の「だんだん楽しくなってきました。」との記述からや単元終了後の感想の「みんなと笑顔で踊ることができた。」などの記入から、学習が進むにつれ、人前で自分を表現することに抵抗を感じなくなり、仲間と励ましなが、笑顔で楽しく活動できたと言える。

生徒Fは、学級平均とほぼ変わらない得点であったが、特に第5時「ペア4コマ創作」では、20点（20点満点中）と一番高かった。これは、ペア創作活動で自分のアイデアや動きを出し合って、仲間と動くことができたことにより、自分なりに満足感と充実感を味わえたからであると考えられる。

良い学習になりました！授業の中で「がんばったところ」は、ちゃんと自分の意見を言ったところです。その意見をみんなが理解してくれて、とり入れられた時は、とてもうれしかったです。少し



【資料 16-⑤】：学習を終えての生徒Dの感想

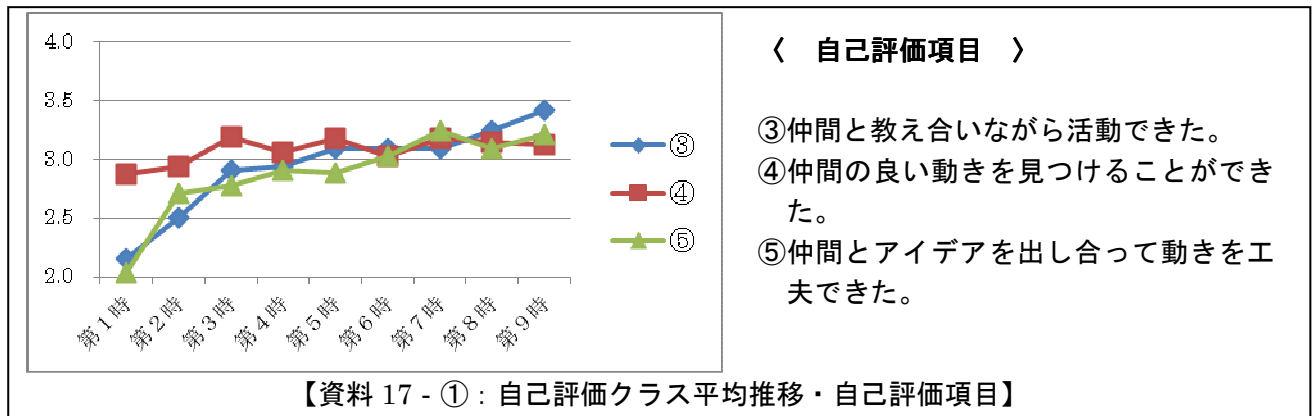
## Ⅶ 全体考察

### 1 学習展開の工夫について

まず、自己評価項目の③「仲間と教え合いながら活動できた」や⑤「仲間とアイデアを出し合って動きを工夫できた」において、クラス平均が向上したことが分かる。【資料 17 - ①】これは、「やってみようタイム」、「広げようタイム」、「深めようタイム」において、「交流」する活動を設定したことで、仲間とともにアイデアを出し合う機会が増え、動きをより工夫できたとともに、段階ごとに言語活動が活発になったことによるものであると考える。

また、④「仲間の良い動きをみつけることができた」【資料 17-①】のクラス平均が他の項目と比べ、全体平均 3.0 点と高い得点であった。これは、「見せ合いタイム」を設定したことで、仲間の良い動きを認め合う学習ができたからであると考えられる。このことは、グループで創作した動きを見せ合い、【写真 26・27・28】評価している【資料 10】からもうかがうことができる。

しかし、1つのグループのみに発表させると、見られている緊張や恥ずかしさから、動きが小さくなったり、笑いでごまかしたりし、伸び伸びと発表できない生徒も見受けられた。このことから、「見せ合いタイム」の設定の仕方を工夫するとともに活動ごとに生徒の感想や動きの評価、賞賛、アドバイスなどの教師の相互作用を活発に行うことで、生徒が自信を持って自己を表現できる学習を進めていくことが必要であることが分かった。



#### 〈 自己評価項目 〉

- ③仲間と教え合いながら活動できた。
- ④仲間の良い動きを見つめることができた。
- ⑤仲間とアイデアを出し合って動きを工夫できた。

【資料 17 - ②】は、単元終了後に取った「仲間とどんなアイデアを出し合って、動きを工夫できましたか。」の質問に対して生徒が活動の中で考えたアイデアを時間・力・空間の要素から整理したものである。このことから、即興的に表現した動きを仲間と工夫する活動とひとまとまりの作品を創作する活動において、生徒は、時間・力・空間の要素から動きを工夫することで、動きの「量」を増やしたり、動きの「質」を高めたりしながら、表現していたことが分かる。これは、【写真 32・33・34】の様子からうかがうことができる。

また、教師が、前時の学習の良かった動きを時間・力・空間の要素からコメントを書き、動きヒントカードとして提示しておく、【写真 37】のように、生徒はそれを参考に動きを工夫したり、仲間の作品を評価したりしていた。

以上のことから、「やってみようタイム」、「広げようタイム」、「深めようタイム」、「見せ合いタイム」を設定したことと、時間・力・空間の要素からの動きづくりの視点を与えたことは、身に付けた動きを仲間と工夫して動きを高めていくとともに、身に付けた動きを基に簡単な創作活動で、より動きを高める上で有効であったと考える。

動きの要素	生徒が考えた動きのアイデア
「時間」	スローモーションの動き
	動きを速くしたり、ゆっくり動いたり
	肩を組んで、ゆっくり動く
「力」	やわらかい動き
	動きを大きく、小さく
「空間」	高低を使った動き
	ジャンプする
	場所を広く使う
	斜めに歩く
	円をつくって、回る

【資料 17 - ②：生徒が考えたアイデア】



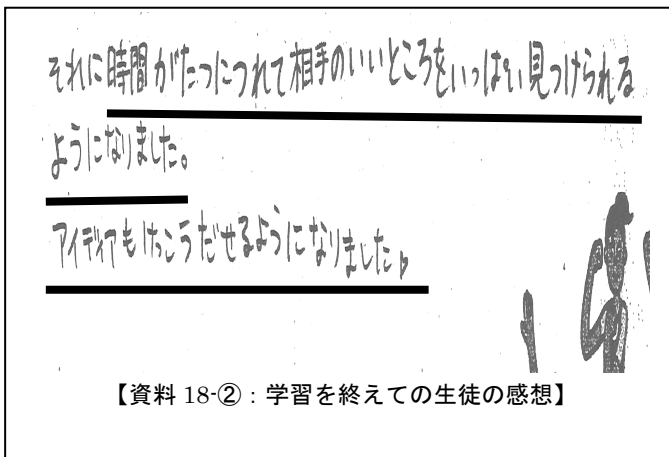
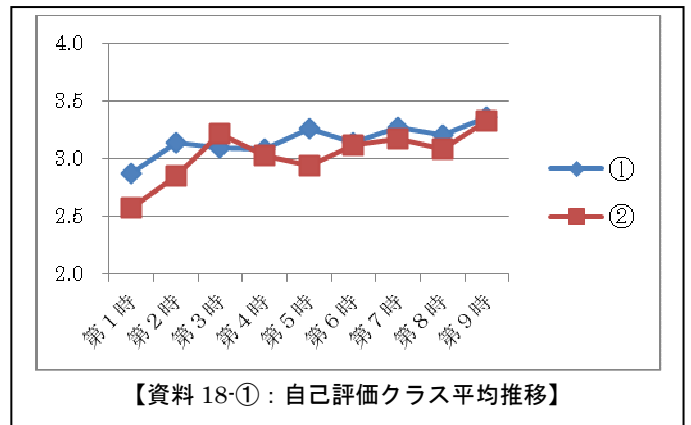
【写真 37：動きヒントカードを見て工夫する視点を確認する生徒】



## 2 『交流』する活動を促す学習形態の工夫について

「**交流**」する活動を促すために**ペア活動**や**グループ活動**で取り組ませたことは、有効であったと考える。これは、【資料 18-①】のように、①「**体をいっぱい使って、仲間と楽しく踊れた**」や②「**いろいろな友達と踊りで交流した**」の項目でクラス平均が向上し、最終の第 9 時では、今までの学習で最高点（①3.4 点、②3.3 点）だったことからもうかがえる。また、【資料 18-②】のように、学習後の感想からも、**ペア**や**グループ**での**創作活動**を設定したことで、仲間の良い動きを参考に自分のイメージや動きのアイデアも増えたと考える。このことは、「**交流**」する活動を通して、**グループ**でアイデアを出し合い、創作している【写真 23・25】からもうかがうことができる。

さらに、単元終了後に取った事後調査において、「友達と交流できた時は、どんな気持ちになりましたか。」の質問に対して【資料 18-③】のように、「うれしい気持ち」や「楽しい気持ち」になると答えている。このことは、仲間とともに活動する喜びを感じられたとともに、よりよい友達関係が築けたからだと考える。



【資料 18-②：学習を終えての生徒の感想】

- うれしい気持ちになった。
- 楽しい気持ちになった。
- 友達の良い動きが分かって良かった。
- 踊りは面白いと思った。
- 明るい気持ちになった。
- 友達は大切だなと思った。
- 温かい気持ちになった。
- 絆が深まった感じがした。
- あまり話したことの無い人と、仲良くなって、嬉しかった。

【資料 18-③：友達と交流できた時の気持ち】

抽出生徒ではないが、第 5 時『ペア 4 コマ創作』において、生徒 a は、動きカードにストーリーも動きも書くことができず、動くことがほとんどできなかった。また、「**交流**」する活動では、仲間からアドバイスをしてもらっても受け入れず、**ペア**での**創作活動**は、上手く進まなかった。しかし、時間を重ねるごとに、グループの仲間からの言葉かけやアドバイスを受け入れ、仲間の動きをまねたり、仲間と一緒に活動したりすることが少しずつできるようになった。第 8・9 時『合唱曲をダンスに創作』で、生徒 a は、合唱曲から「うれしい気持ち」とイメージし、「その場でジャンプする」動きを考え、この動きを**グループ**で「**交流**」する活動を通して、「その場でジャンプする」動きから「ジャンプしながら回る」動きへと工夫することができた。また、【写真 38】のように、集まったり、離れたり、肩を組んだりして回る、群が「空間」を変化する動きなどの工夫が見られた。このことから、**ペア**創作から**グループ**創作へと人数が増えたことで、アイデアが増え、「**交流**」する活動が段階ごとに活発になり、動きを高めるだけでなく、友達のアイデアを認め、意見を出し合える友達関係を築けたと考える。



【写真 38：仲間とともに練習している生徒 a の様子】

以上のことから、「**交流**」する活動を促すために、「**やってみようタイム**」、「**広げようタイム**」、「**深めようタイム**」、「**見せ合いタイム**」において、**ペア**や**グループ**での活動を多く取り入れたことで、仲間とイメージや動きを共有し、動きを工夫することができたとともに言語活動が充実し、響き合って踊る生徒が育つ上で有効であったと考える。



## Ⅷ 研究のまとめ

### 1 成果

- (1) 「やってみようタイム」、「広げようタイム」、「深めようタイム」、「見せ合いタイム」の学習展開を工夫し、「交流」する活動を設定したことで、時間・力・空間の要素から動きを工夫する生徒を育てることができた。
- (2) 「交流」する活動を促すためにペアやグループなど学習形態を工夫することにより、仲間とイメージや動きを共有し、動きを工夫することができたとともに言語活動が充実し、動きを高め合うことができた。

以上のことから、「学習展開の工夫」と「『交流』する活動を促す学習形態の工夫」を行い、『交流』する活動を中心とした言語活動の充実を図ったことで、動きを高め合い、響き合って踊る生徒を育てることができた。

### 2 課題

- (1) 今回の研究で、ダンス領域は他の領域に比べ、生徒の心と体を解放させ、自己を表現できる雰囲気をつくることが重要であると感じた。人前で踊ることに照れたり、恥ずかしがったりする生徒やなかなか踊ろうとしない生徒へのさらなる言葉かけ、動きをより引き出すための賞賛や助言など教師の相互作用を活発に行うことが必要である。
- (2) 生徒のイメージをさらに広げ、動きをより引き出すための教材の研究や生徒がより積極的に創作活動に取り組めるような場の工夫が必要である。

### 【 引用・参考文献 】

- |  |            |      |
|--|------------|------|
| 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」                      | 文部科学省      | 2008 |
| 「舞踊学講義」舞踊教育研究会 編著                        | 大修館書店      | 1991 |
| 「中学校体育実践指導全集 第8巻 ダンス」片岡康子・村田芳子 編著        | 日本教育図書センター | 1992 |
| 「SPASS 第11巻」中学校体育・スポーツ教育実践講座刊行会 編著       | ニチブン       | 1998 |
| 「シーデントップ 体育の教授技術」ダリル・シーデントップ 著 高橋健夫 他訳   | 大修館書店      | 1998 |
| 「新版 体育科教育学入門」高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著       | 大修館書店      | 2010 |
| 「中学校体育の授業 下巻」杉山重利・高橋健夫・園山和夫・細江文利・本村清人 編著 | 大修館書店      | 2001 |
| 「体育授業を観察評価する」高橋健夫 編著                     | 明和出版       | 2003 |
| 「体育における学習意欲の喚起に関する研究」西田保 編著              | 杏林書院       | 2004 |
| 「体育学習カード資料集 中学校編」名古屋市体育研究会 編著            | 明治図書       | 2004 |
| 「各教科等における言語活動の充実—その方策と実践事例」高木展郎 編著       | 教育開発研究所    | 2008 |
| 「平成22年度 専門研修 ダンス講座 資料集」                  | 福岡県体育研究所   | 2010 |
| 「平成20年度 長期派遣研修員 研修報告書」                   | 福岡県体育研究所   | 2009 |
| 「平成21年度 長期派遣研修員 研修報告書」                   | 福岡県体育研究所   | 2010 |